

大学院

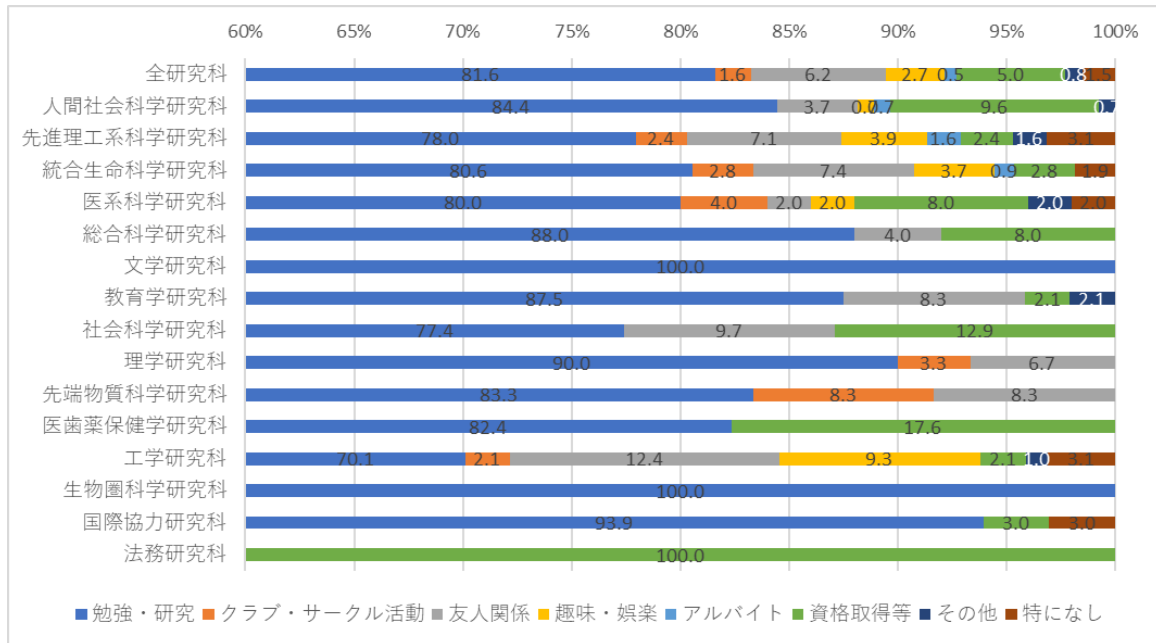
(※ 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合があります)

1 大学生活において大切にしているもの

設問1 大学生活において何を大切にしていますか。

大学院生になると、全体の81.6%が「勉強・研究」と回答している。学部生に比べると「クラブ・サークル活動」や「趣味・娯楽」の割合が低下し、前回同様、研究に比重を置いた生活となっていることが推察された。

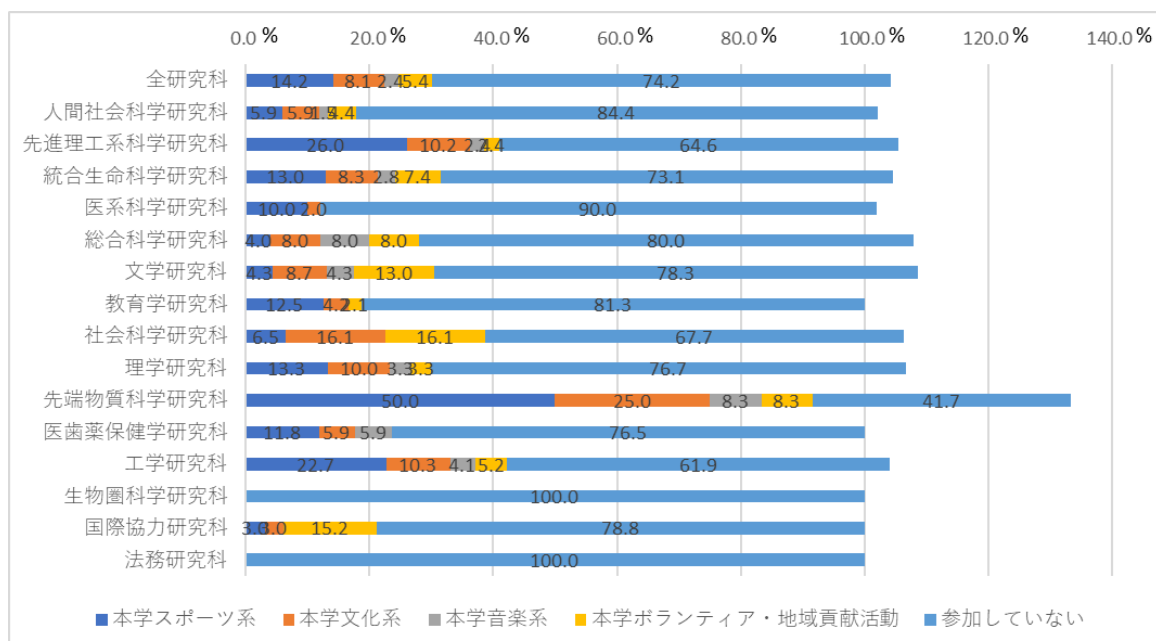
※ グラフの目盛りの最小値は60%



2 学内のクラブ・サークル活動への参加

設問2 学内のクラブやサークル活動に参加していますか。(複数回答可)

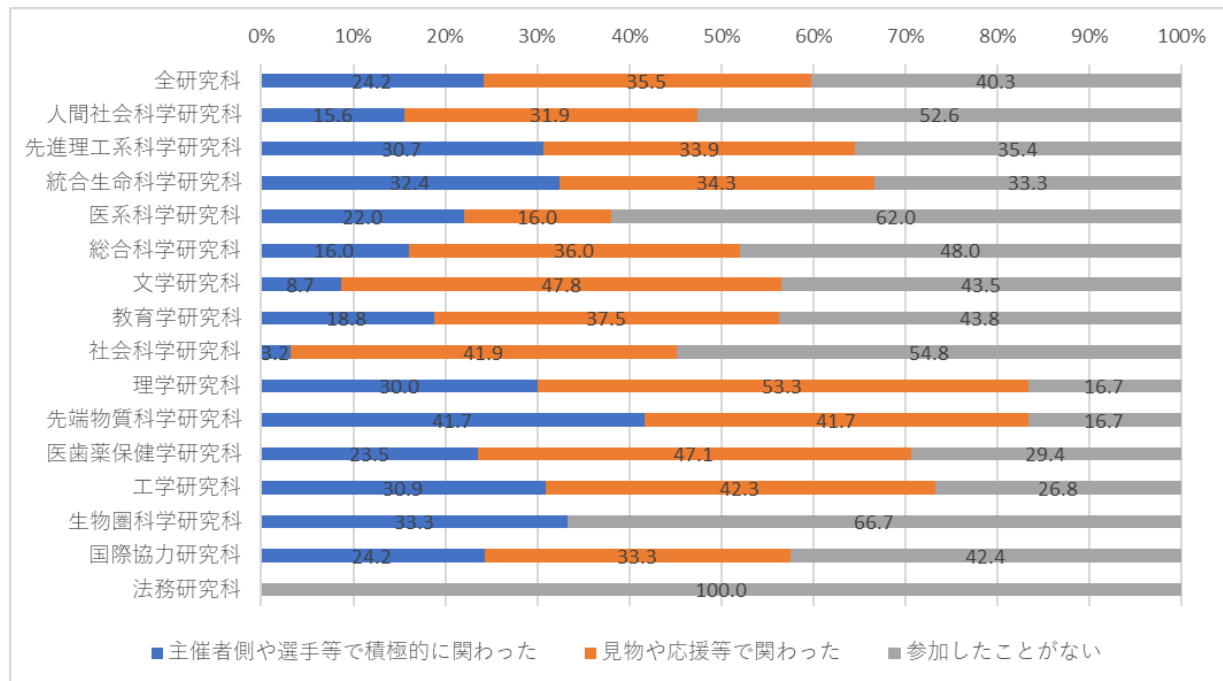
全体の約4分の3の大学院生は、学内のクラブやサークル活動に参加していない。過去数年間の調査では、「参加していない」と回答した大学院生の割合は60%台後半で推移していたことから、今回の調査では増加していることがわかる。この要因は定かではないものの、新型コロナウイルス感染症の流行による影響も一つの可能性として考えられる。学部生と比べても学内のクラブやサークル活動への参加割合は大幅に低く、大学院では研究活動への比重が高いことがうかがえる。



3 大学の行事への参加

設問3 大学祭、ゆかたまつり、フェニックスリレーマラソン、霞祭等の大学の行事に参加したことがありますか。

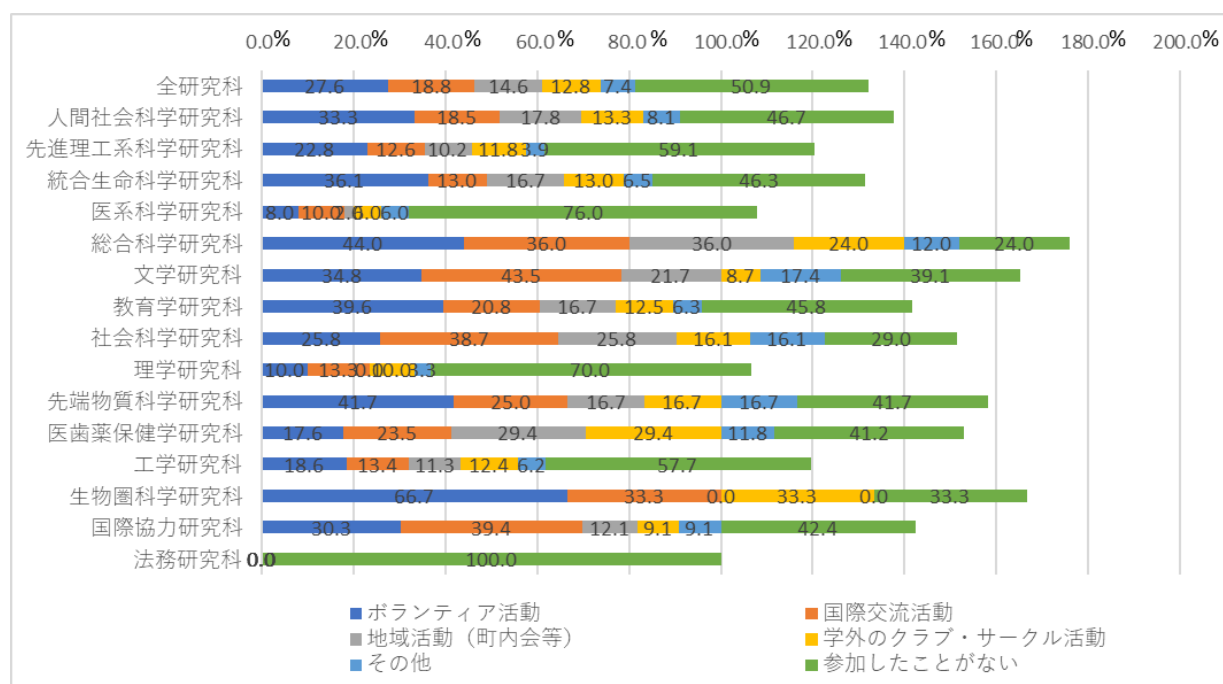
全体の約6割の大学院生は、大学の行事に参加した経験がある。過去数年間の調査と比べても、大学の行事への参加割合は数ポイント以上減少しているが、これも新型コロナウイルス感染症の流行により参加機会が減少したことが一つの可能性として考えられる。一方、行事への参加形態に違いはあるものの、大学院生も学部生も大学の行事への参加割合は同程度である。



4 ボランティアや地域活動への参加

設問4 学外のボランティア活動や地域の活動に参加したことがありますか。（複数回答可）

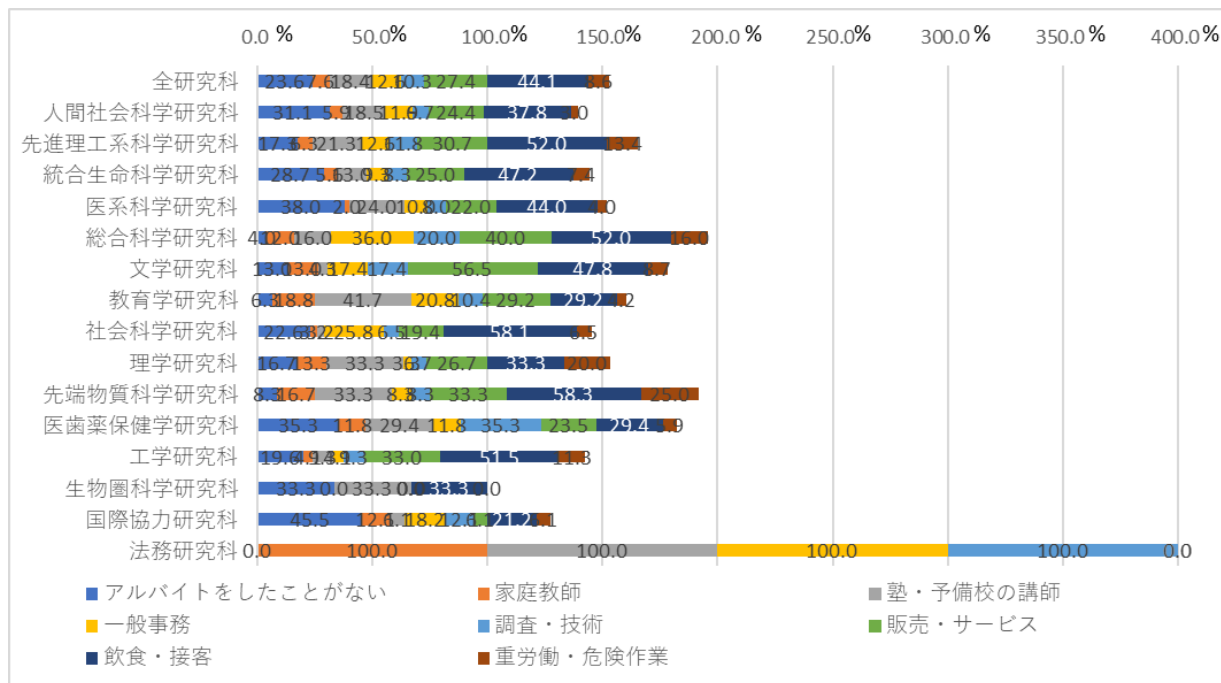
大学院生の約半数が学外のボランティア活動や地域の活動に参加している。参加割合は過去数年間の調査と比べて数ポイント減少しているが、これも新型コロナウイルス感染症の流行による影響を受けた可能性が考えられる。



5 アルバイト

設問5 入学後何らかのアルバイトをしたことがありますか。(複数回答可)

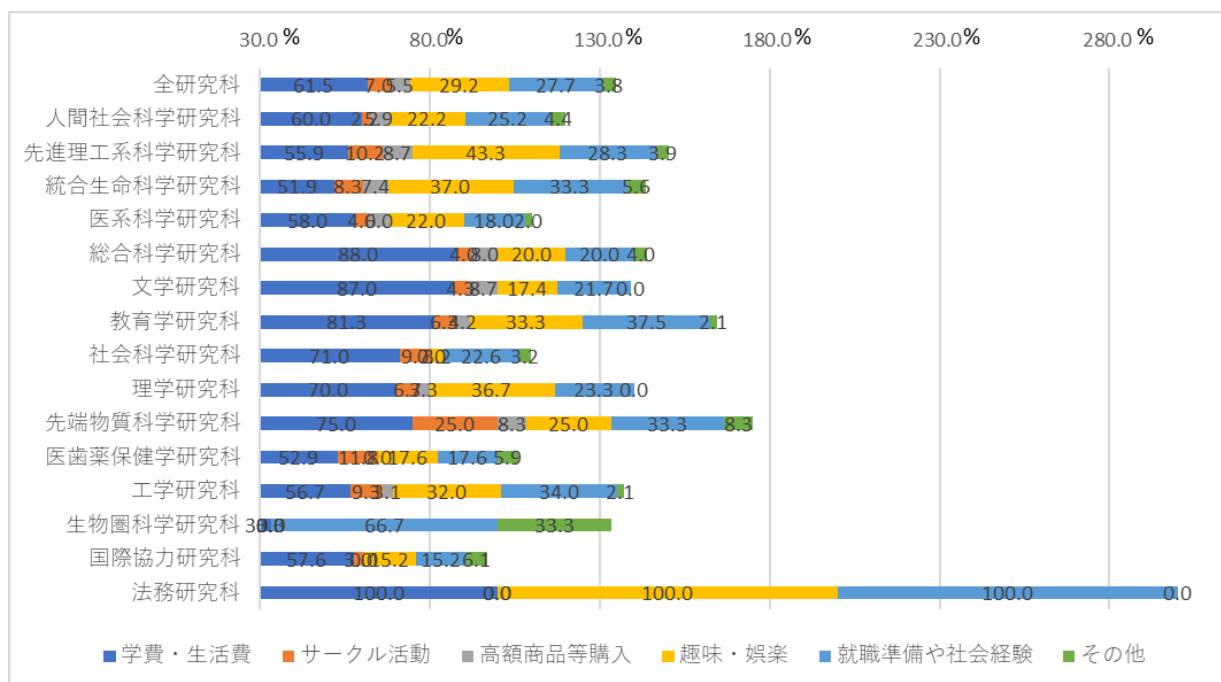
全体として、入学後に何らかのアルバイトを経験した大学院生の割合は24%であり、前回調査（平成30年度）から大きな変化は見られない。アルバイト業務としては、殆どの研究科で「飲食・接客」に携わっている割合が高いものの、「家庭教師」「塾・予備校の講師」といった教育関連業務に携わる割合は、旧研究科のうち教育学研究科で約6割と最も高く、その他の旧研究科の一部でも比較的高い割合となっている。



設問6 アルバイトの主な目的は何ですか。(複数回答可)

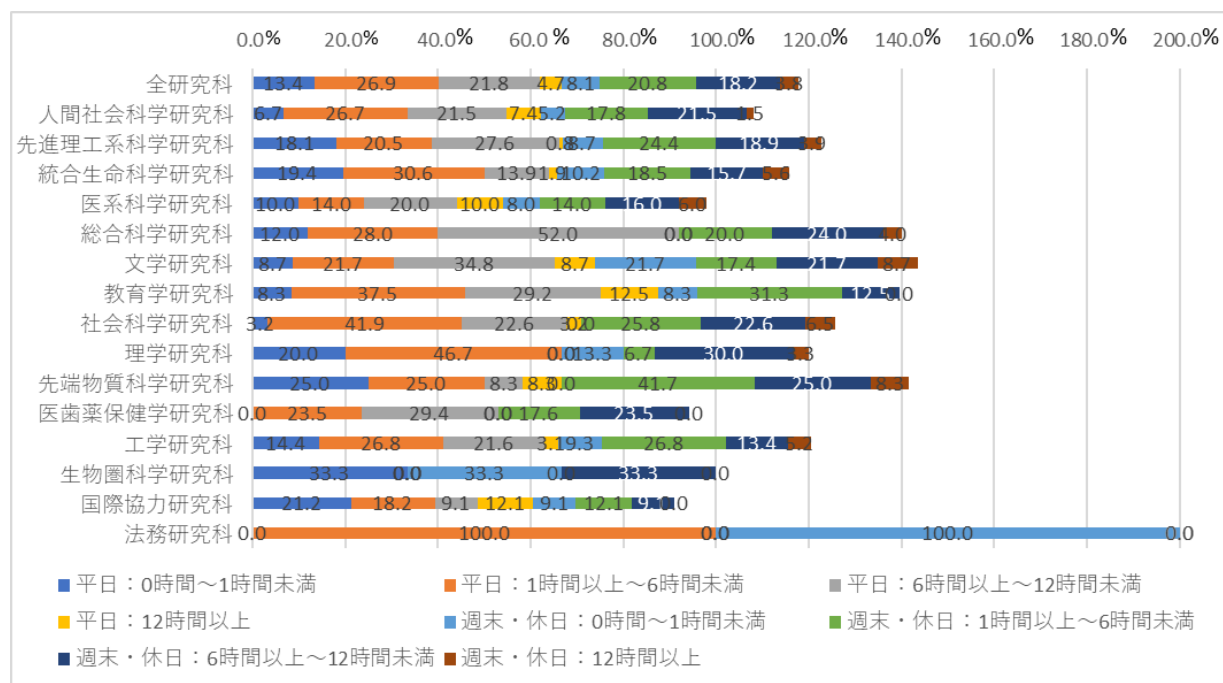
全体として、アルバイトの主な目的が「学費・生活費」と回答する大学院生の割合が約6割と最も高く、旧研究科の一部では8割以上を占めている。また、学部生と比べても、「学費・生活費」がアルバイトの主な目的となっている。

※ グラフの目盛りの最小値は30%



設問7 一週間あたりアルバイトを何時間していますか。「平日」及び「週末・休日」それぞれの中から一つずつ選択してください。

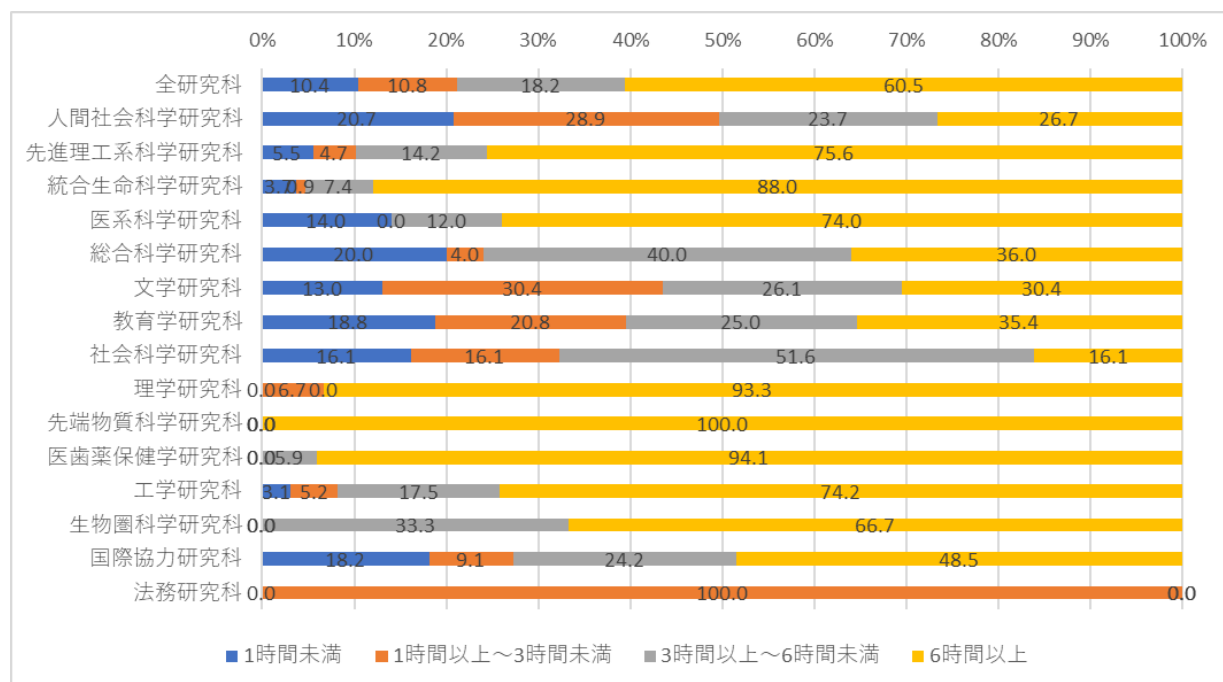
大学院生全体では、1週間あたりのアルバイト時間が、平日および週末ともに、「1時間以上～6時間未満」がそれぞれ27%および21%と最も多く、次いで「6時間以上～12時間未満」となっている。その一方、大学院生のアルバイトに割く時間は、学部生に比べてやや抑えられていることがわかる。



6 大学構内での滞在時間・場所について

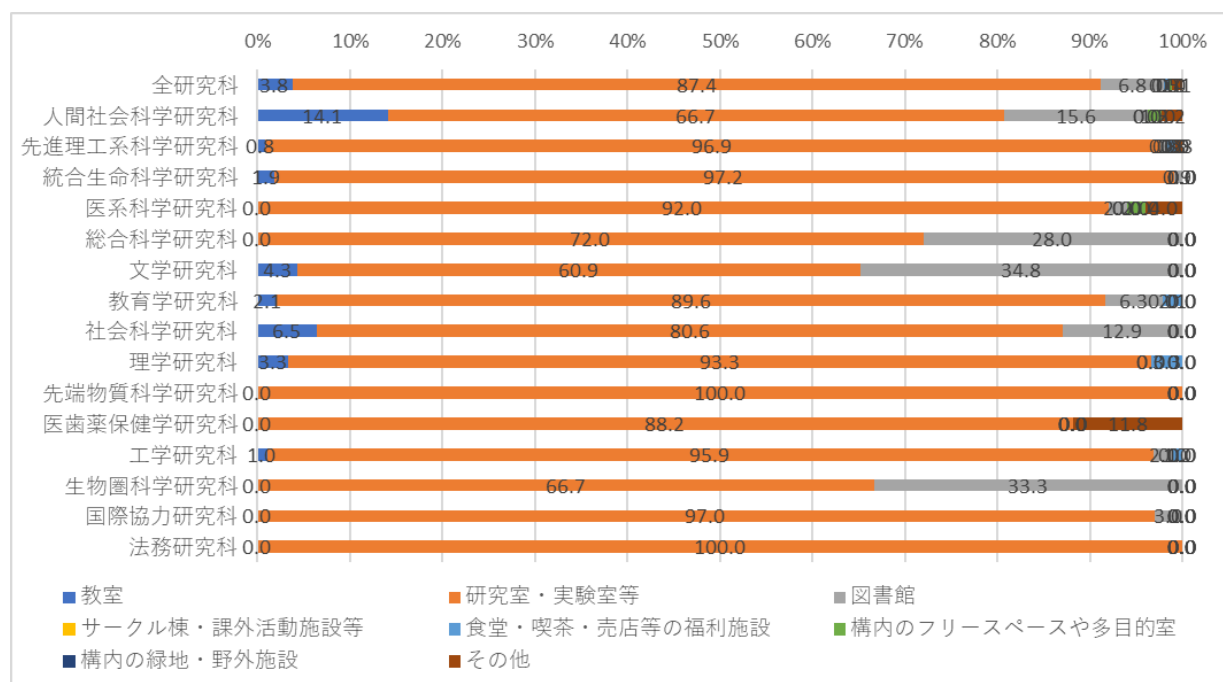
設問8 一日に大学構内にどれくらいの時間滞在していますか。

全研究科の合計では6時間以上が60%で、3-6時間が18%、3時間未満が21%であった。H30年度調査では6時間以上が76.2%であったので、今回は減少しており、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を一定程度受けていると思われる。研究科ごとに見ると、6時間以上は文系研究科で少なく、理系研究科と法務研究科で多い傾向があり、このことは前回調査と同じである。



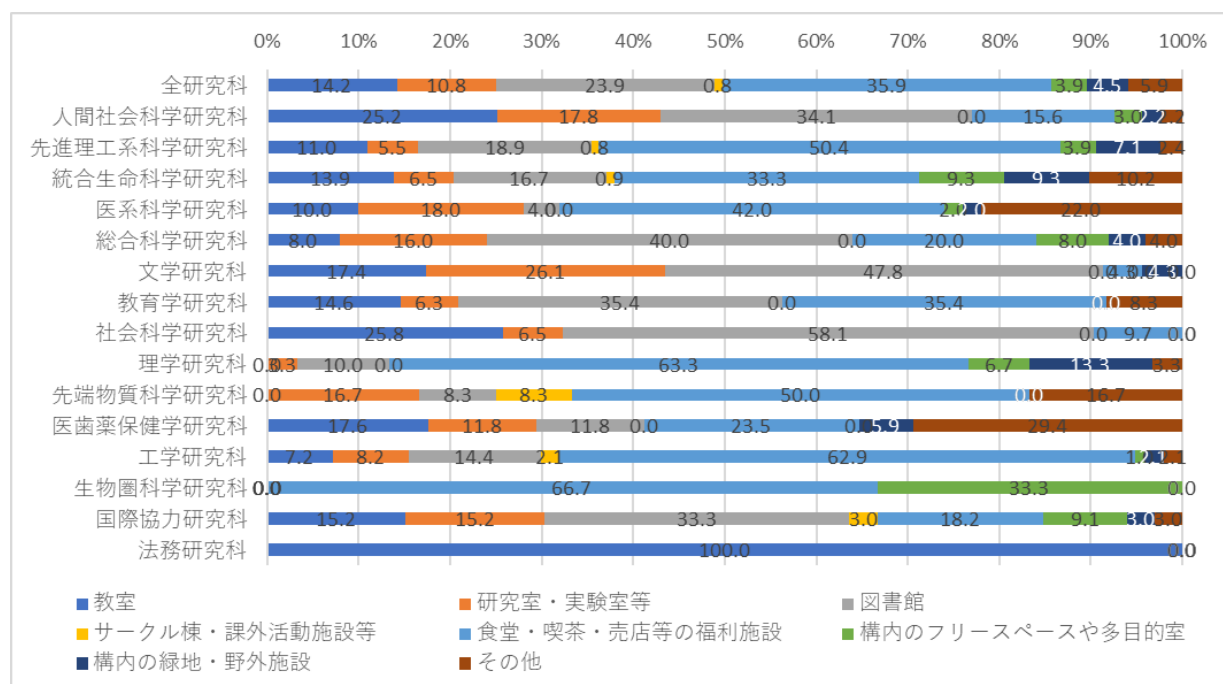
設問9 大学構内の滞在時間のうち、1番多く滞在している場所はどこですか。

滞在時間が長い場所は、全研究科の合計では研究室・実験室等が最も多い87%で研究活動の場所が反映されていると思われる、また多くの理系の研究科と法務研究科では100%またはそれに近かった。文学研究科、総合科学研究科、生物圏科学研究科や人間社会科学研究科では図書館にも比較的多く滞在していた。



設問10 大学構内の滞在時間のうち、2番目に多く滞在している場所はどこですか。

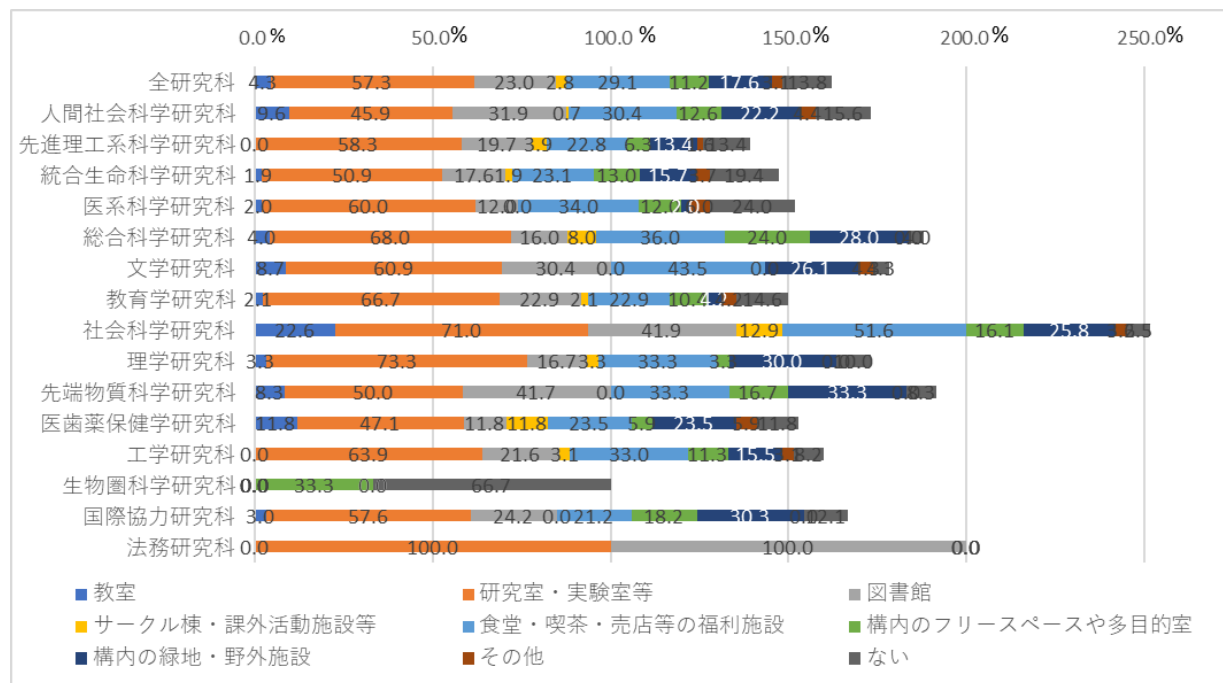
2番目に多く滞在している場所は、「食堂・喫茶・売店等の福利施設」が多く36%で、これに次いで図書館の24%教室の14%程度も見られた。「食堂・喫茶・売店等の福利施設」はほぼ全体の研究科で多く、こういったスペースも日常の滞在場所として大切なようである。図書館は文科系の研究科で多かった。



7 大学構内でくつろいで過ごせる場所

設問11 大学内にくつろいで過ごせる場所がありますか。(複数回答可)

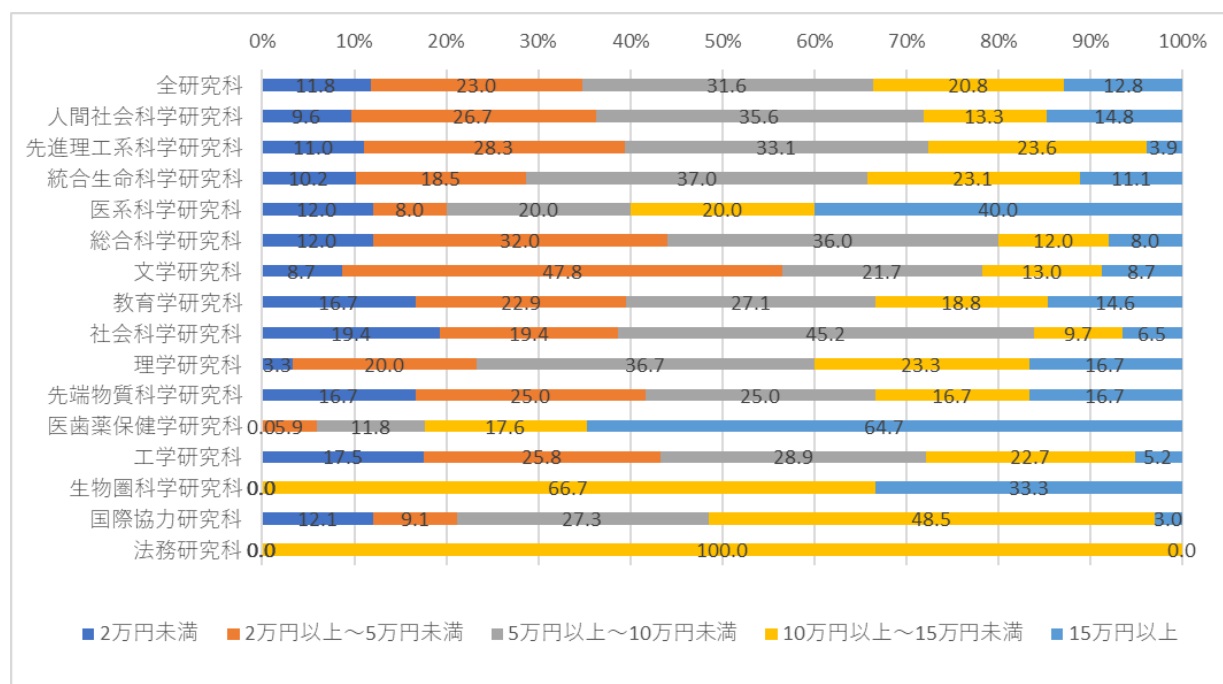
大学内でくつろいで過ごせる場所は、生物圏科学研究科を除く全部の研究科で、研究室が46-73%と多く、また食堂・喫茶・売店等の福利施設が30%程度、図書館が23%程度の順で多かった。課題としては、法務研究会と生物圏科学研究科以外では、くつろげる場所がないという回答が一定数あったので、その理由を明らかにして改善を検討する必要がある。



8 1ヶ月の生計費（収入・支出）

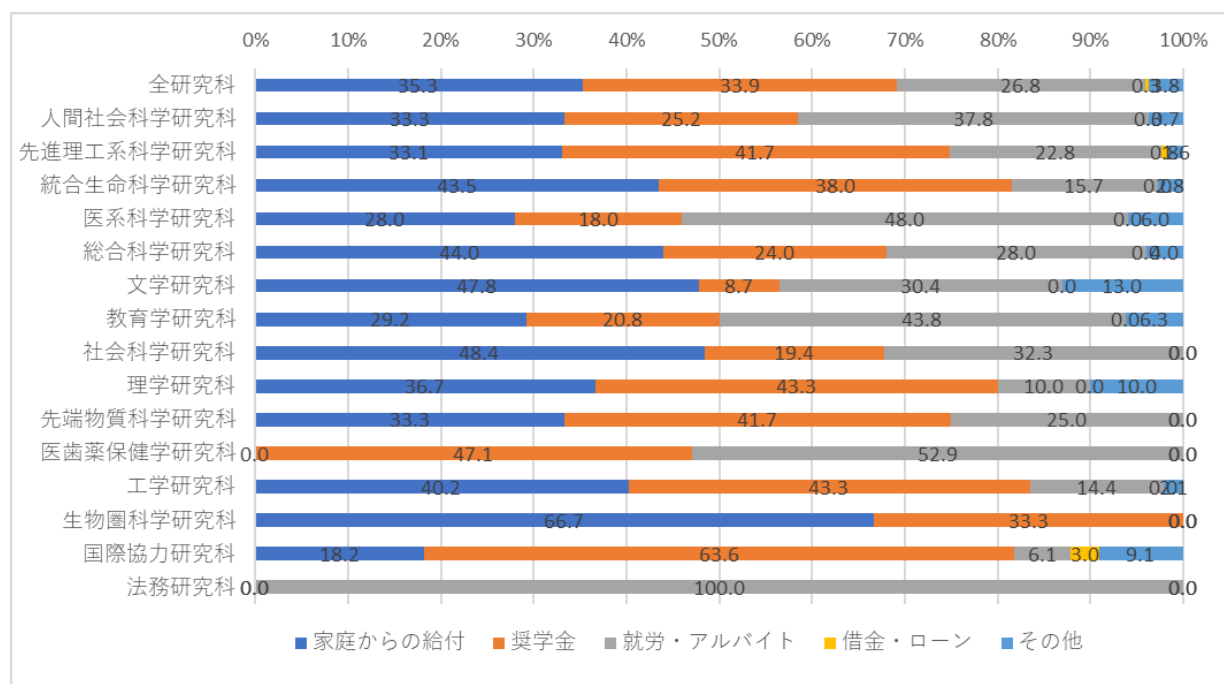
設問12 1ヶ月の収入はいくらですか。

1カ月の収入は、5-10万円が32%、2-5万円が23%で多く、これに次いで、10-15万円が21%、2万円未満が12%であった。この傾向は平成30年度調査とほぼ同じである。医歯薬保健学研究科と医系科学研究科は15万円以上の割合が高いが、社会人院生が多いことも考えられるので、評価の判断には慎重を要する。法務研究科と生物圏科学研究科以外では2万円未満が10%前後見られるが、生活に困窮している状況であれば、院生の確保や、研究に取り組めるようにするためにも経済支援が必要と思われる。



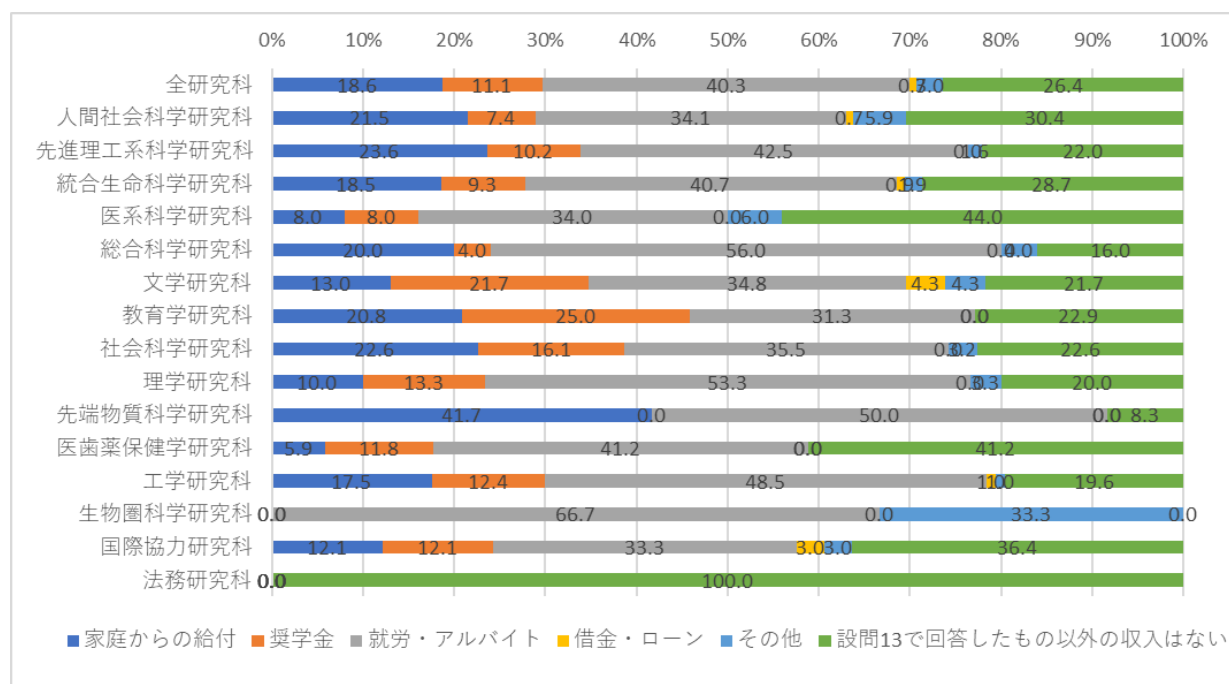
設問 13 1ヶ月の収入のうち、1番多い収入は、次のどれですか。

研究科によって割合の違いはあるが、全学を合計すると一番多い収入は「家庭からの給付」の35%，ついで「奨学金」の34%，「就労・アルバイト」の27%，であった。「就労・アルバイト」は医系の研究科で多いほか、文科系の研究科の方が理系の研究科より多い。この傾向は平成30年度調査と同じである。



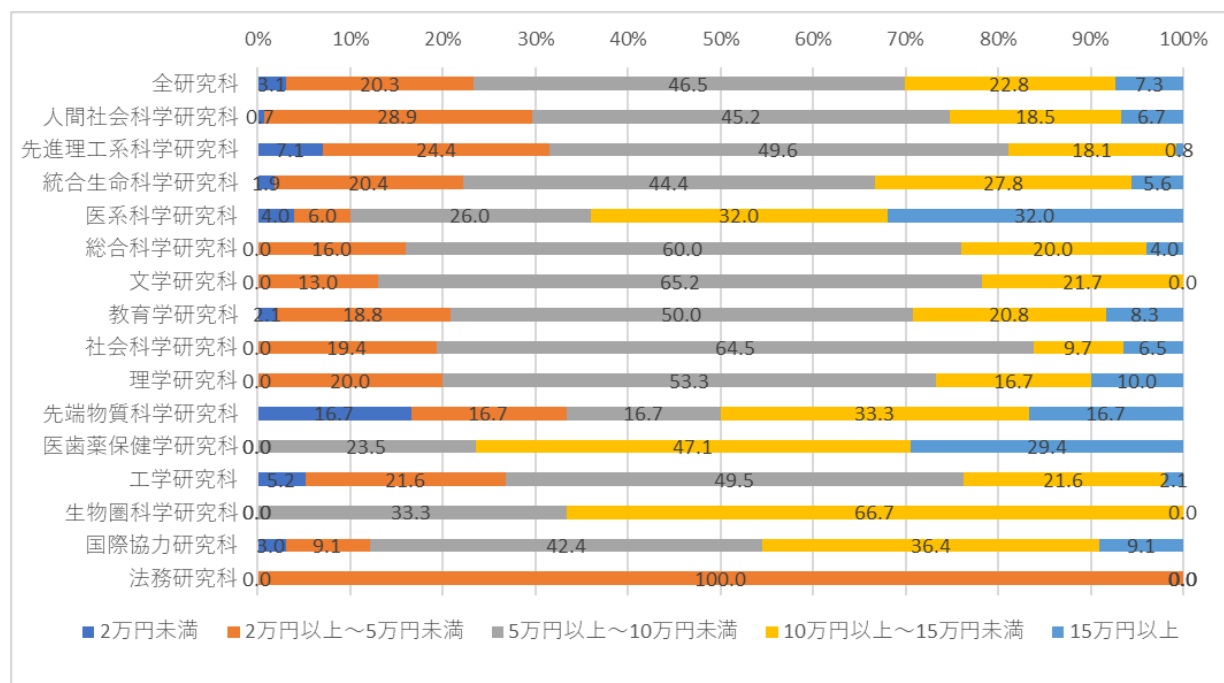
設問 14 1ヶ月の収入のうち、2番目に多い収入は、次のどれですか。

2番目に多い収入は、「就労・アルバイト」の40%が最も多く、「家庭からの給付」が19%、「奨学金」が11%と続いた。この傾向と割合も平成30年度評価とほぼ同じである。「就労・アルバイト」の割合は研究科ごとに見ていくと、文系と理系とで顕著な差はないようである。



設問 15 1ヶ月の支出はいくらですか。

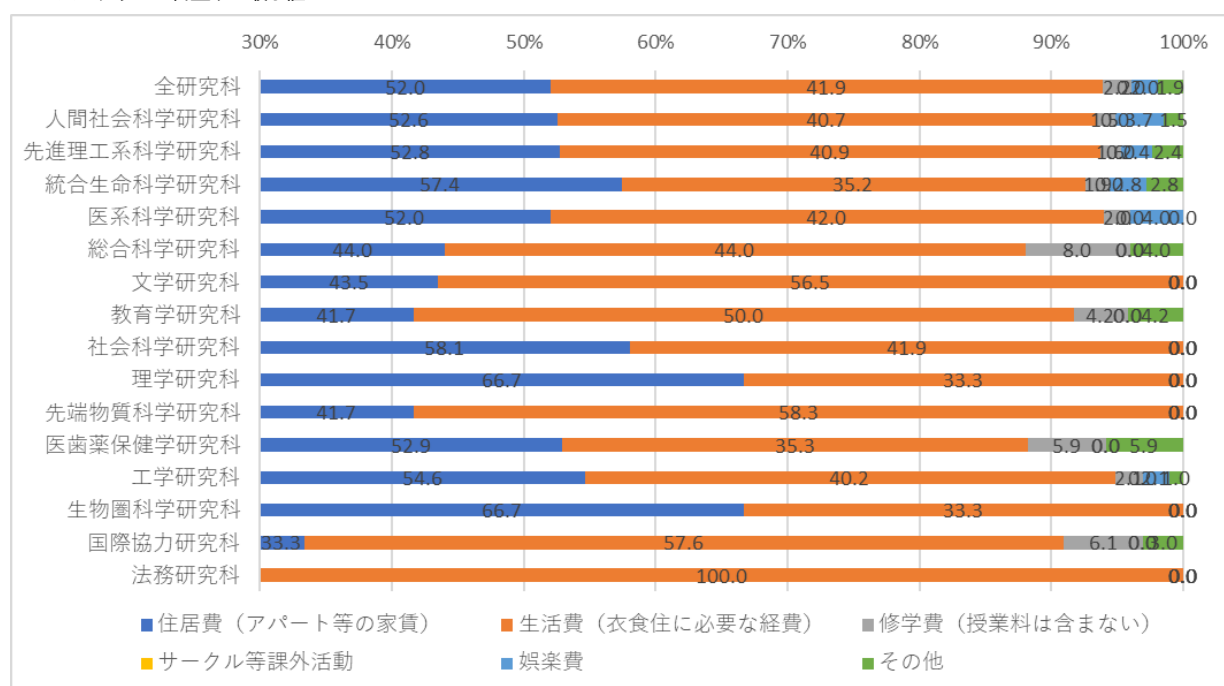
1ヶ月の支出は、全学では5-10万円が47%で最も多く、10-15万円が23%、2-5万円が20%であった。5-10万円が最も多く、10-15万円と2-5万円も一定数あるという傾向は、割合の違いはあるものの、理系と文科系を問わず、全部の研究科で共通している。また、平成30年度調査でもほぼ同じ傾向であるので、新型コロナウイルス感染症拡大状況と支出額との関係は定かではない。2万円未満は3%であった。15万円以上も医系の研究科を始めとして一定数見られるが、社会人院生や家族構成の影響もあるかもしれない。



設問 16 1ヶ月の支出のうち、1番多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。

全研究科の合計で、一番多く必要とする経費は、住居費の52%と生活費（衣食住）の42%で、この2つの項目が多い傾向は研究科ごとに見てもほぼ同様である。一方、修学費と娯楽費は全研究科の合計でそれぞれ2%であるものの、一部の研究科ではみられない。平成30年度調査では、修学費と娯楽費は全部の研究科で見られて、合計では修学費3.7%と娯楽費4.3%で今回より多かった。今回の減少が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で支出を抑えた結果であるとする、修学費や娯楽費に影響があったことが考えられる。

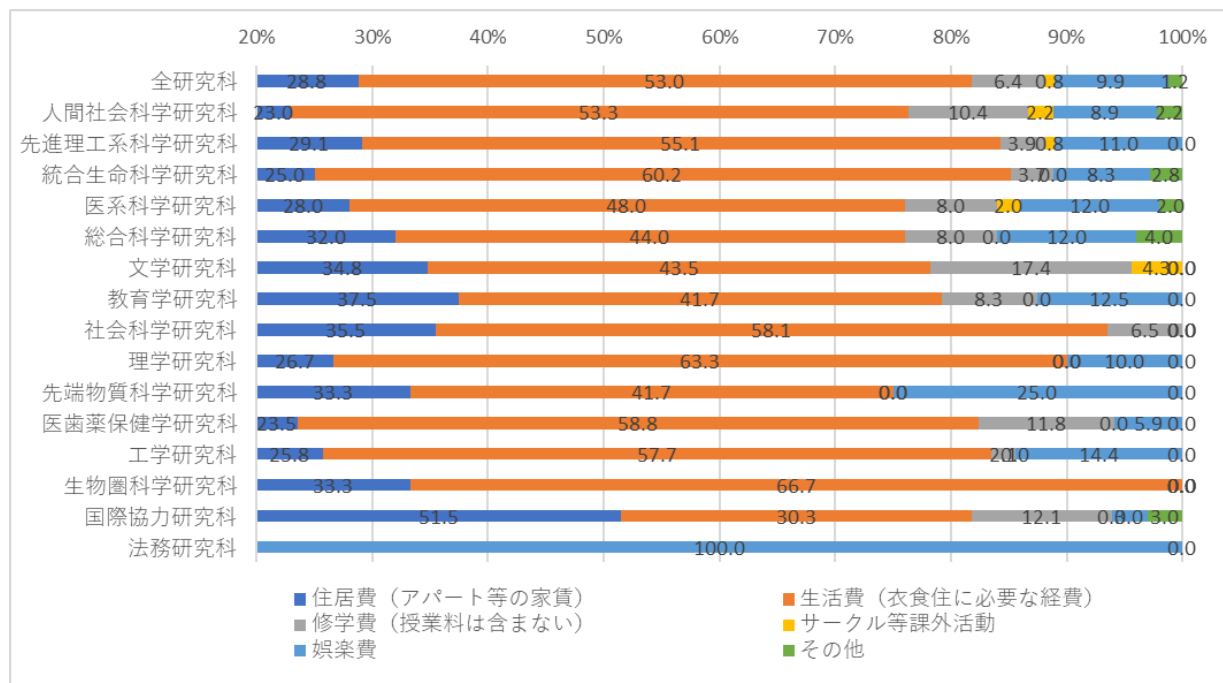
※ グラフの目盛りの最小値は30%



設問 17 1ヶ月の支出のうち、2番目に多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。

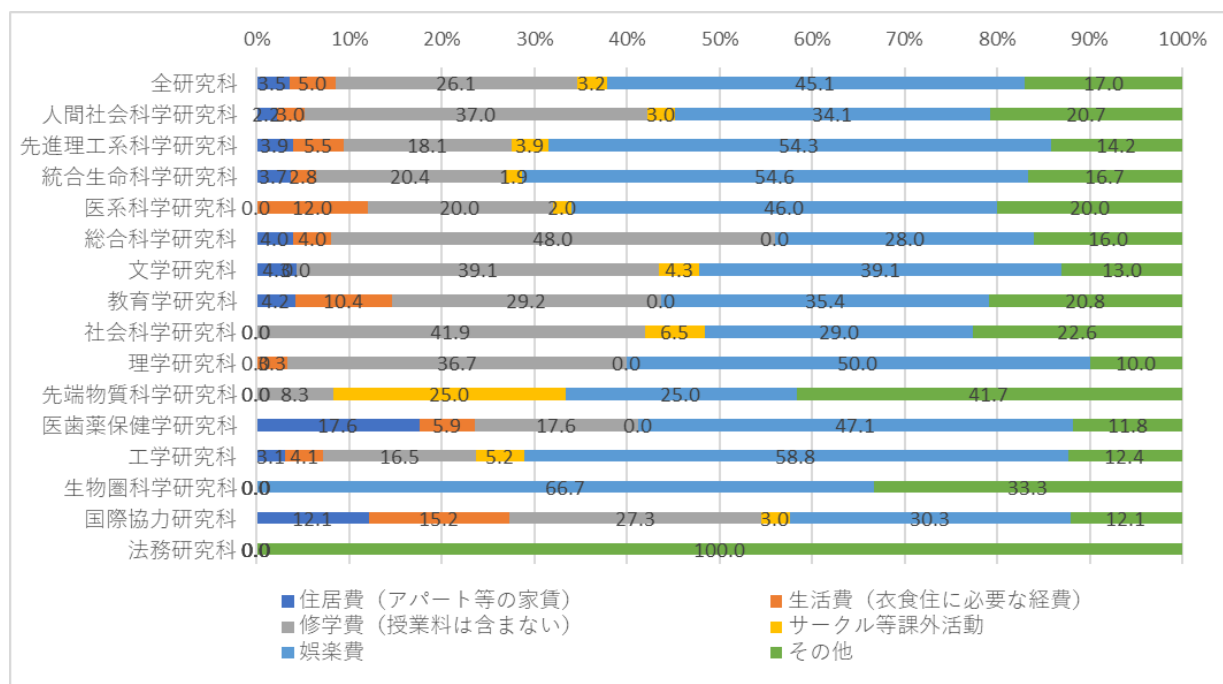
2番目に多く必要とする経費は、全研究科の結果で、生活費（衣食住）が53%で最も多く、住居費の29%がこれに続いていた。設問16の結果と合わせて、これらが支出に必要な主な経費と考えられる。修学費は6.4%で2番目に多く支出する経費にあげられているが、一部の研究科ではみられない。娯楽費は10%程度であげられている。

※ グラフの目盛りの最小値は20%



問 18 1ヶ月の支出のうち、3番目に多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。

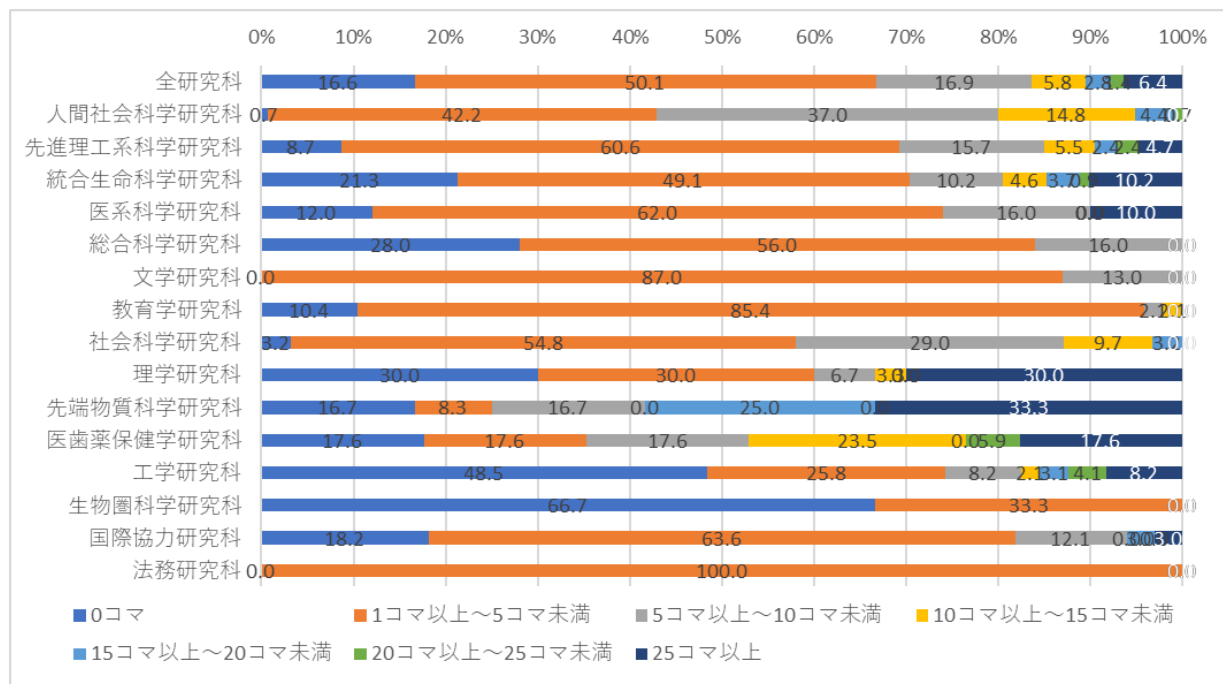
娯楽費が45%で、修学費が26%であった。平成30年度調査では娯楽費が47%で、修学費が21%であったので、今回の結果とほぼ同じである。娯楽費が一定割合でみられることは生活の健全性を示しているかもしれない。住居費と生活費を3番目に多く必要とする割合は3-5%で少なかった。



9 1週間の学習時間

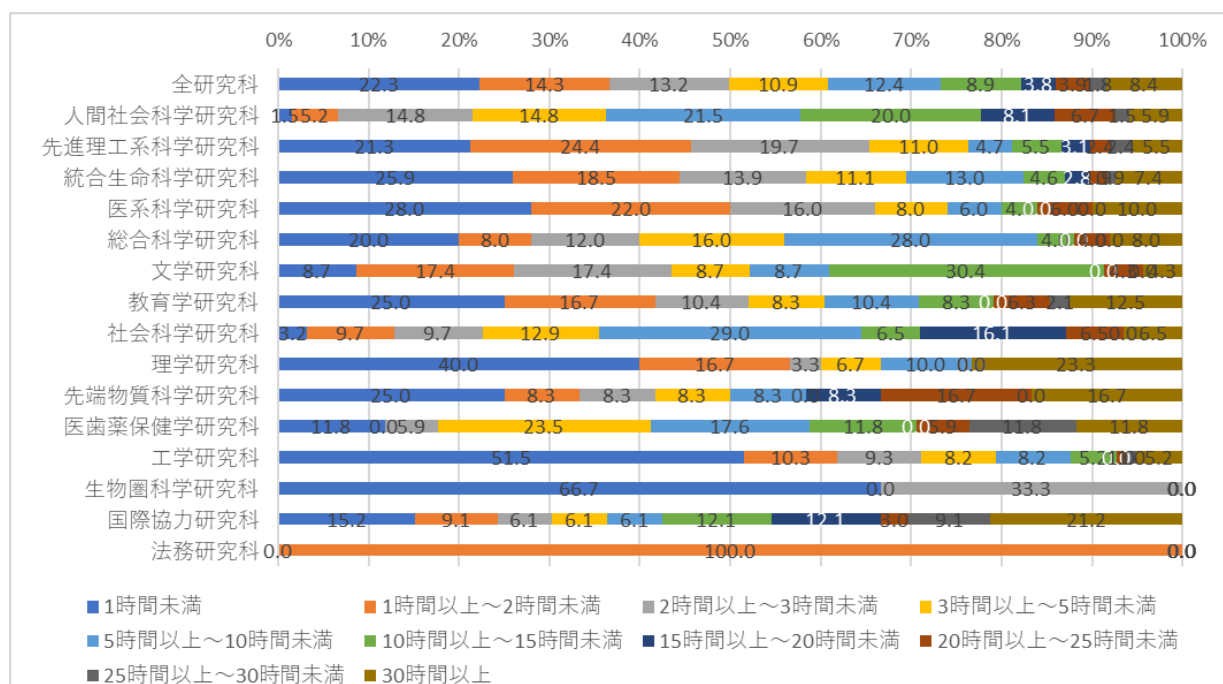
設問 19 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業（講義・演習・実験・実習若しくは実技）への出席にあてていますか。

多くの研究科において、1～5 コマ程度の授業出席がボリュームゾーンとなっていることがわかる。また、授業出席が0 コマであると回答した学生の割合が、一部の研究科（工学、生物圏科学）で高い点特徴的である。大学院においては、授業よりも研究室を核とした研究活動に比重が置かれることに起因していると思われるが、大学院再編により共通科目の比重が高くなったことが今後この分布を変動させるのかどうかを慎重に見ていく必要がある。



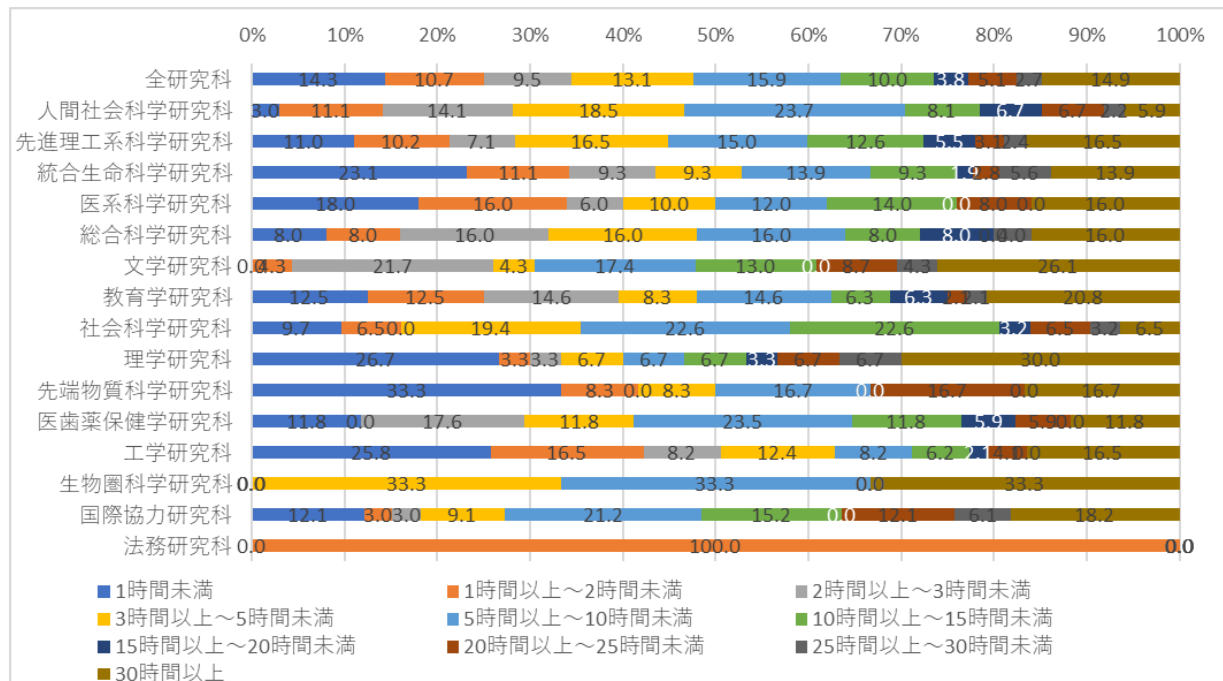
設問 20 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業（講義・演習・実験・実習若しくは実技）の課題、準備・復習などにあてていますか。

設問 19 の分布とある程度対応していると思われるような分布となっていることがわかる。特に1時間未満の割合は、ある程度授業コマ数ゼロと対応していると推察される。先の設問 19 と同様、大学院再編により研究科・専攻のレベルにおける共通科目が増加したことにより、学習時間にも今後変動が予想される点には留意しておきたい。



設問 21 授業期間中、平均して 1 週間でどれくらいの時間を授業とは関係のない自主的な学習にあてていますか。

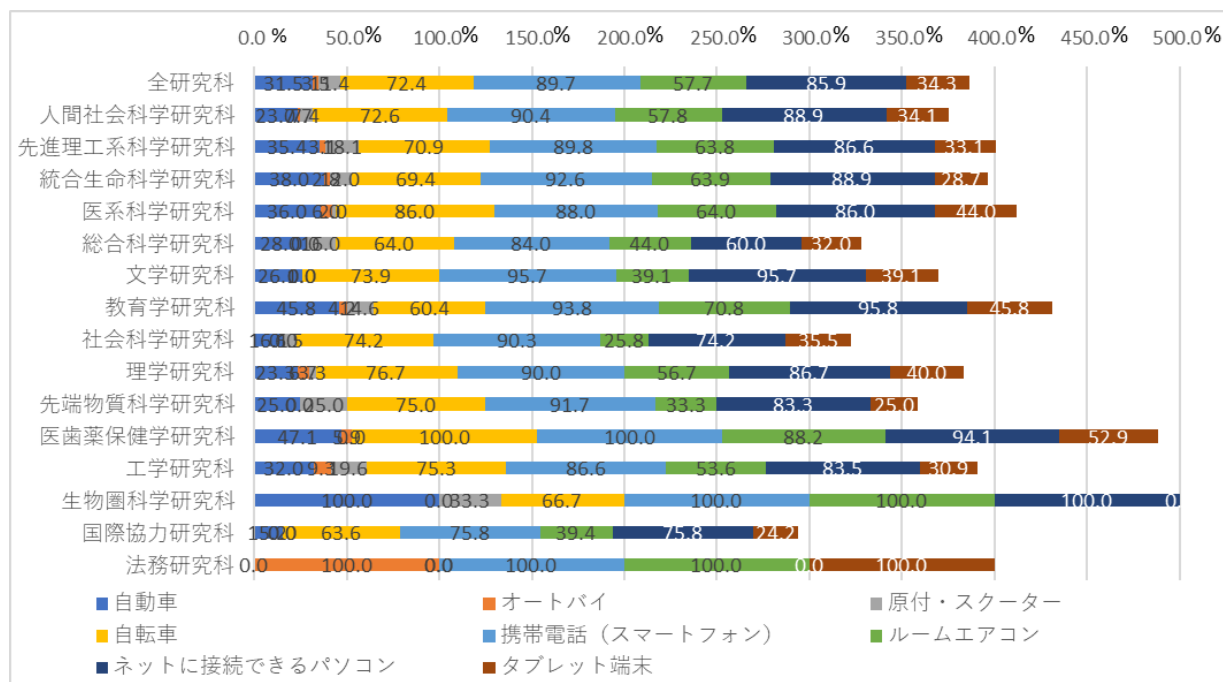
「自主的な学習」に関しては、特に理学・先端物質科学において、1 時間未満の学生の割合が高い点が懸念される。これに関しては、「授業とは関係無い自主的な学習」に関する学生側の解釈の仕方が、設問の意図通りではないことに起因している可能性もあるし、これら研究科において院生が自主的な学習にも時間を割けないくらいの状況（研究室の共同研究に組み込まれて専従している等）が生じているかもしれない。この点は慎重な要因分析が必要とされよう。



10 所有もしくは占有している物

設問 22 所有もしくは専用物がありますか。(複数回答可)

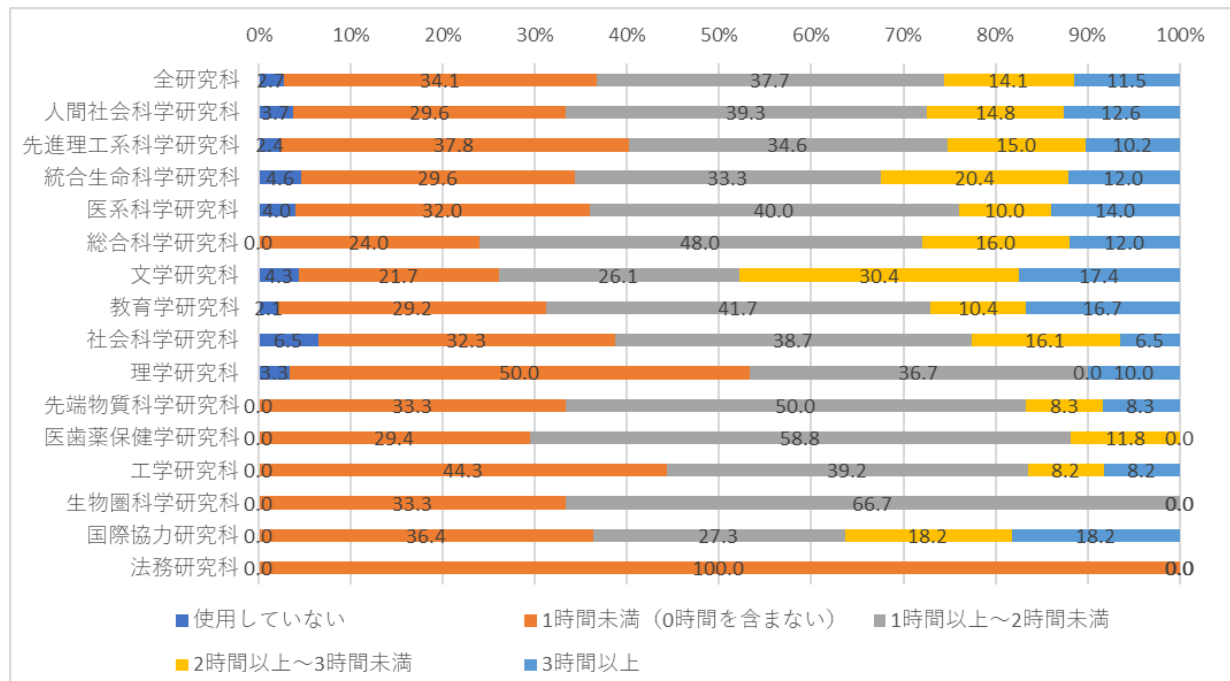
移動手段として所有している専用物は自転車 が 72% で最も多く、自動車は 31% であった。この 2 つが多いことは法務研究科を除いて全学部でほぼ共通している。携帯電話（スマートフォン）は 90% 以上、ネットに接続できるパソコンは 86% 前後が保有し、タブレット端末も 34% が保有している。これらの保有率は高いと思われるが、オンラインによる授業や講演会などに対応していくには、一部の保有していない学生への支援体制を整備することが望まれる。



1 1 Social Network Service の使用状況について

設問 23 Facebook・Instagram・LINE・Twitter 等の SNS (Social Network Service) を 1 日でどれくらいの時間使用していますか。

全体として、SNS を「使用していない」学生は 2.7%にとどまり、1 時間未満は 34%であり、1-2 時間は 38%、2-3 時間は 14%、3 時間以上は 12%であった。1 時間以上の学生は、平成 30 年度調査では 54%であったが、今回の調査では約 63%であった。今回はオンライン授業等のため、自宅で過ごす時間が多く、友人とコンタクトするのに必要だったためか、SNS に費やす時間が前回より増えている。

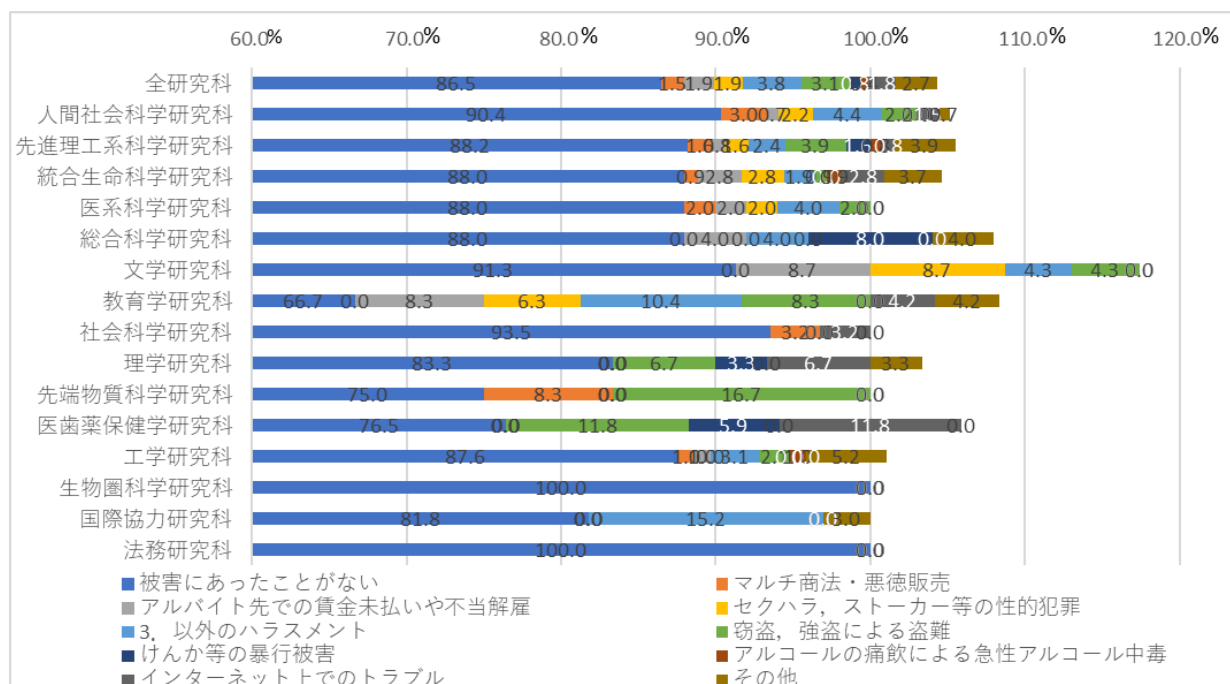


1 2 犯罪やトラブルなどの被害経験（複数回答可）

設問 24 学生生活において、何らかの犯罪や民事上の被害・トラブルを経験したことがありますか。

何らかの犯罪や民事上の被害・トラブルを経験したことがある学生は 13.5%で、平成 30 年度調査の 17.2%や平成 29 年度の 21.6%より減少傾向にある。「セクハラ、ストーカー等の性的犯罪」(1.9%)や「ハラスメント」(3.8%)は多くの研究科で見られ、「マルチ商法・悪徳販売」(1.8%)や「アルバイト先での賃金未払いや不当解雇」(1.9%)の問題も発生している。「窃盗、強盗による盗難」には研究科の偏りがあるが、16.7%や 11.8%と高い研究科も見られた。

※ グラフの目盛りの最小値は 60%

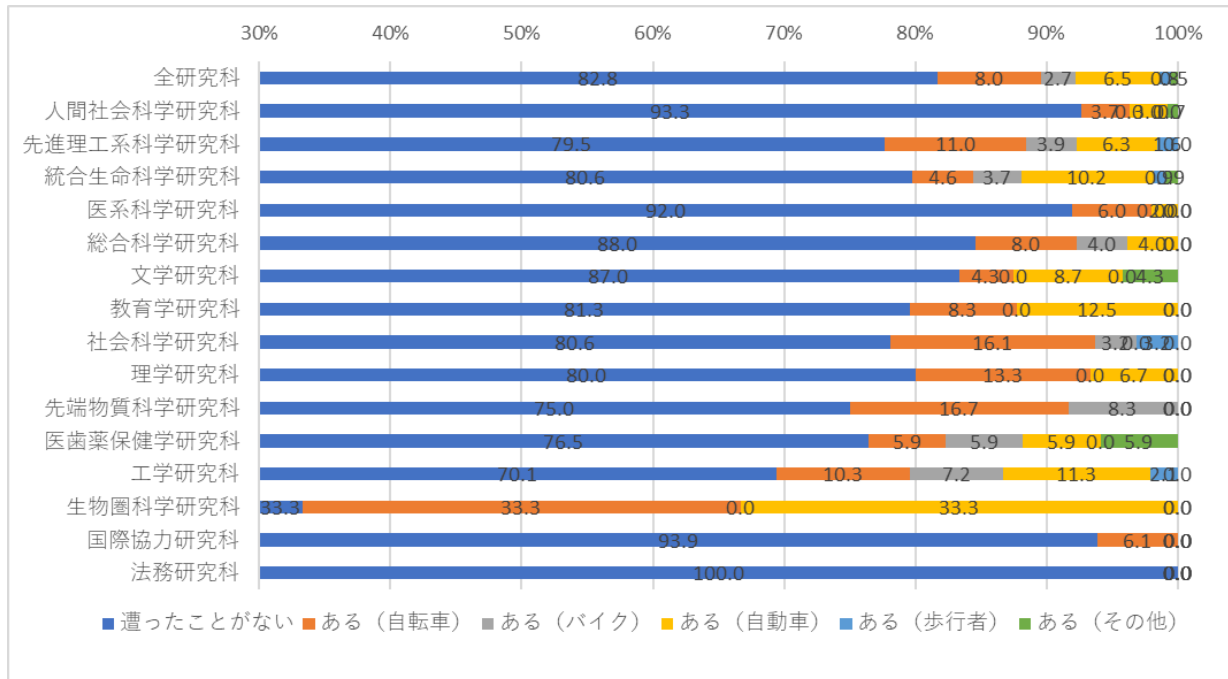


13 交通事故の経験

設問 25 在学中交通事故に遭ったことがありますか。(複数回答可)

全研究科合計では、在学中交通事故遭遇の割合は約 17%であり、自転車 8.0%、自動車 6.5%、バイク 82.7%による事故であった。平成 30 年度調査では交通事故遭遇割合は約 18%で、今回はこれと同水準である。自動車やバイクによる事故は重大な事故につながることもあり、自転車の事故と合わせて、引き続き交通安全の呼びかけが必要である。

※ グラフの目盛りの最小値は 30%

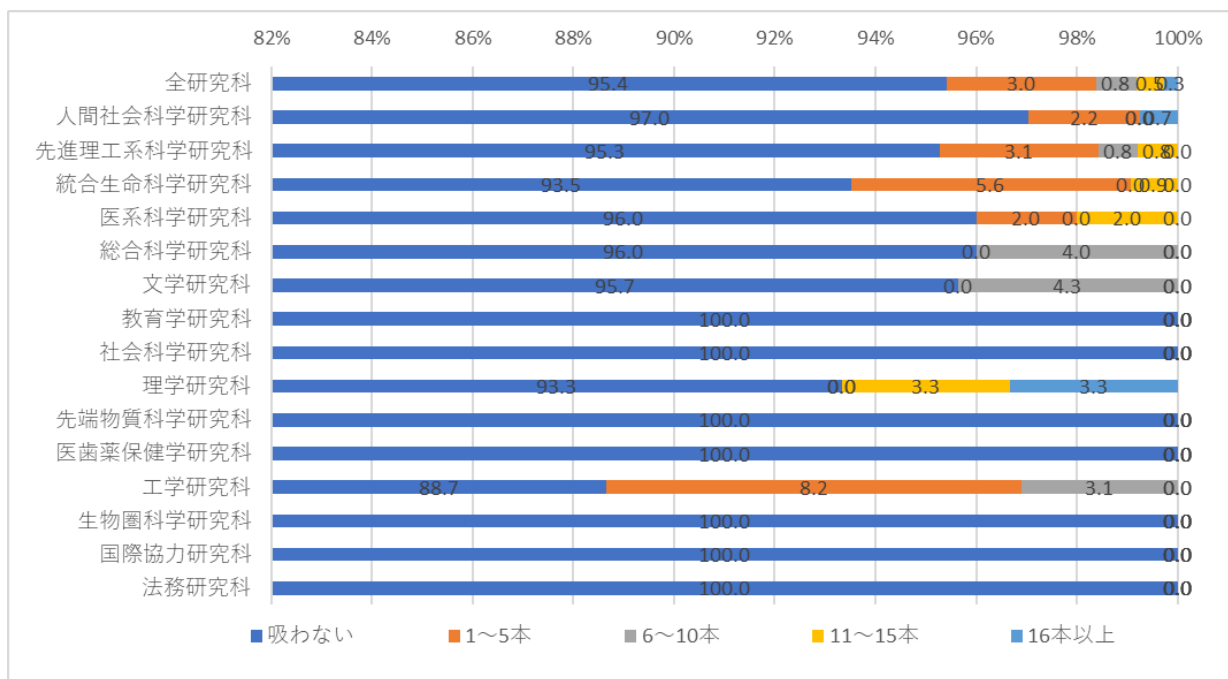


14 喫煙及び飲酒の習慣

設問 26 喫煙の習慣がありますか。1 日に吸う本数をお答えください。

全体として、「吸わない」という回答が 9 割を超えている。習慣的に喫煙している者の割合は 4.6%であり、前回に比べて 2.1%さらに減少している。学部生に比べると大学院生の喫煙率は若干増加する傾向にあるが、これまでの調査から、大学院生においても 10.8%（平成 24 年度）、7.0%（平成 26 年度）と喫煙率は年々低下している。

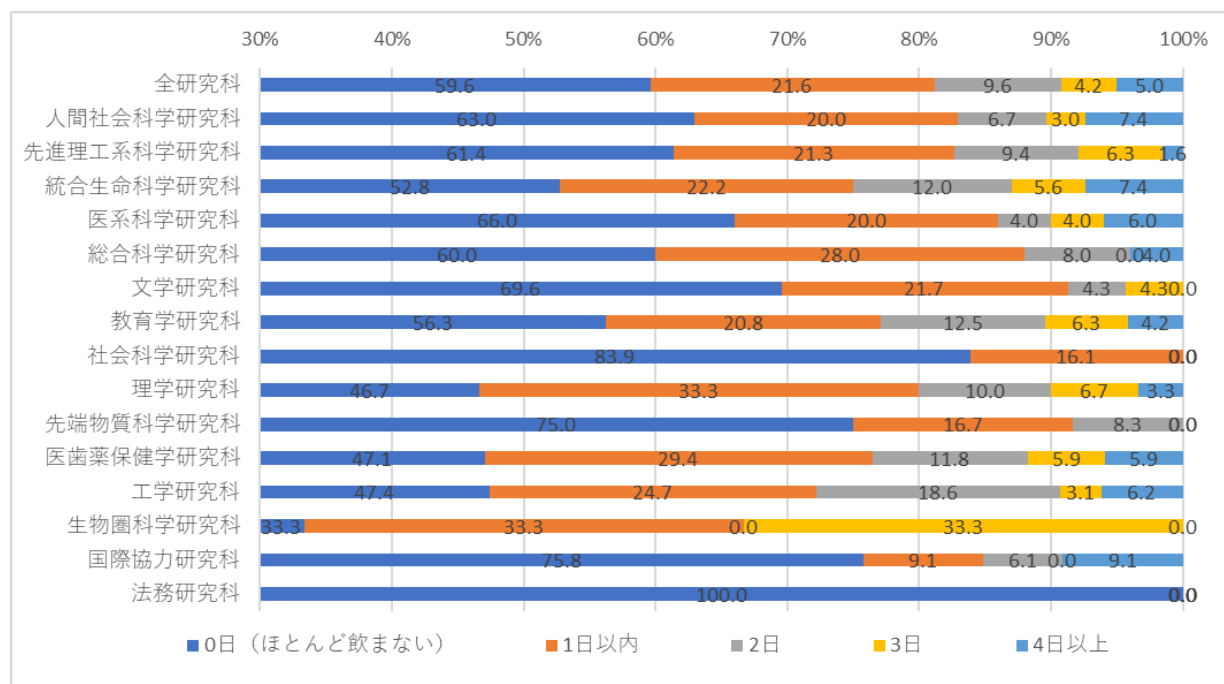
※ グラフの目盛りの最小値は 82%



設問 27 飲酒の習慣がありますか。1週間に飲む日数でお答えください。

全体として 59.6%の大学院生は「ほとんど飲まない」と回答しているが、前回は 58.3%であり、週 3 日以上の飲酒習慣のある者の割合も 9.2%（前回 8.5%）と増えており、わずかではあるが、飲酒する者の割合および頻度は増加している。

※ グラフの目盛りの最小値は 30%

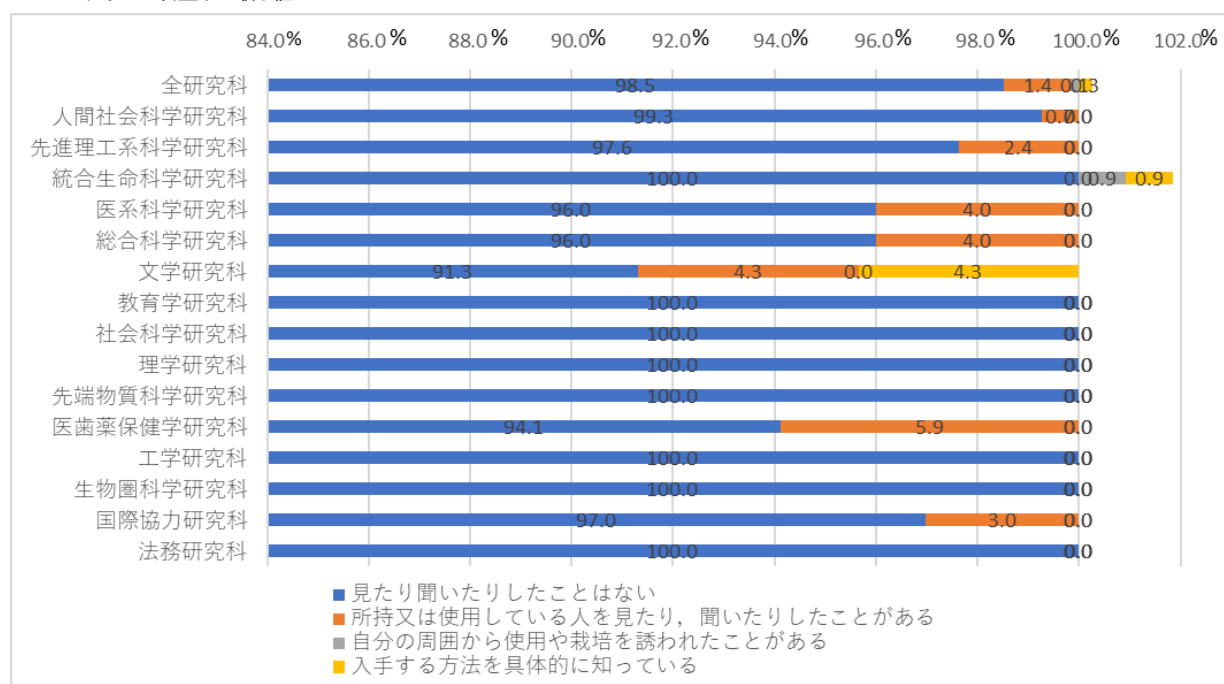


1 5 薬物（大麻等・覚醒剤）や危険ドラッグ等について

設問 28 薬物（大麻等・覚醒剤）や危険ドラッグ等について、該当するものを選択してください。（授業・研究目的のものは除く）（複数回答可）

全体としては「見たり聞いたりしたことはない」という回答が 98.5%であり、前回（98.1%）とほぼ同様の結果であった。しかしながら、「所持又は使用している人を見聞きしたことがある」という回答が 1.4%あり、学部生においても 1.5%存在することから、今後とも注意が必要である。

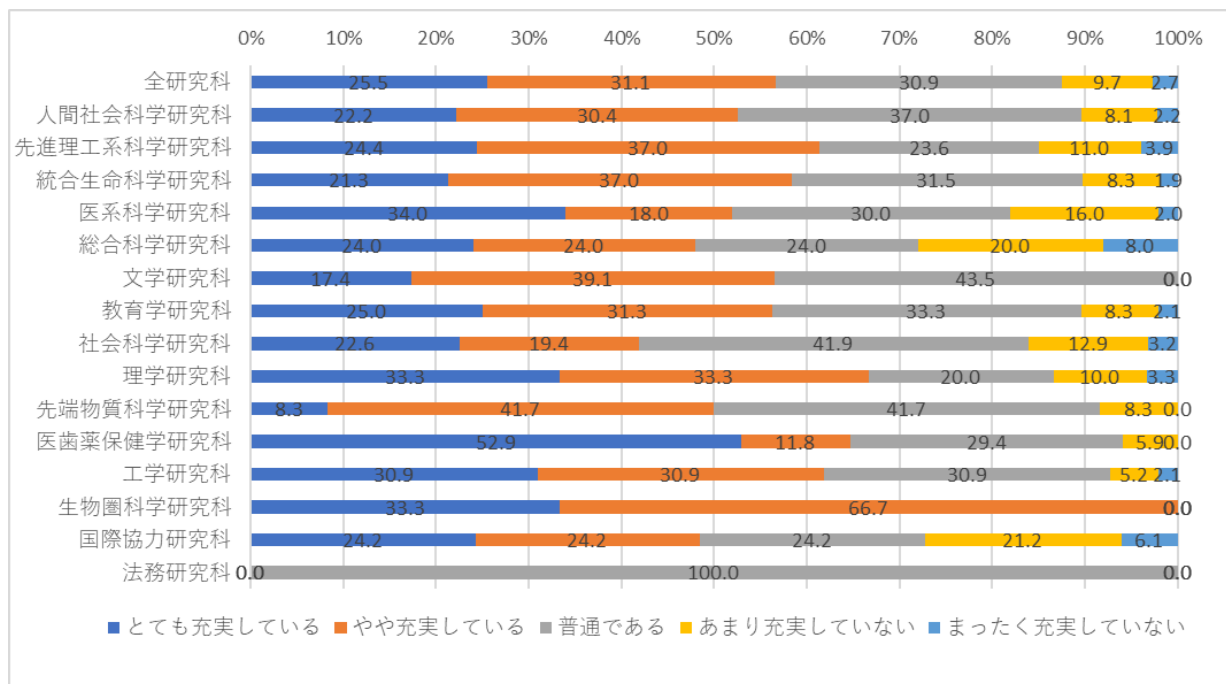
※ グラフの目盛りの最小値は 84%



16 授業以外の学生生活の充実度

設問 29 授業以外の学生生活を充実して過ごしていますか。

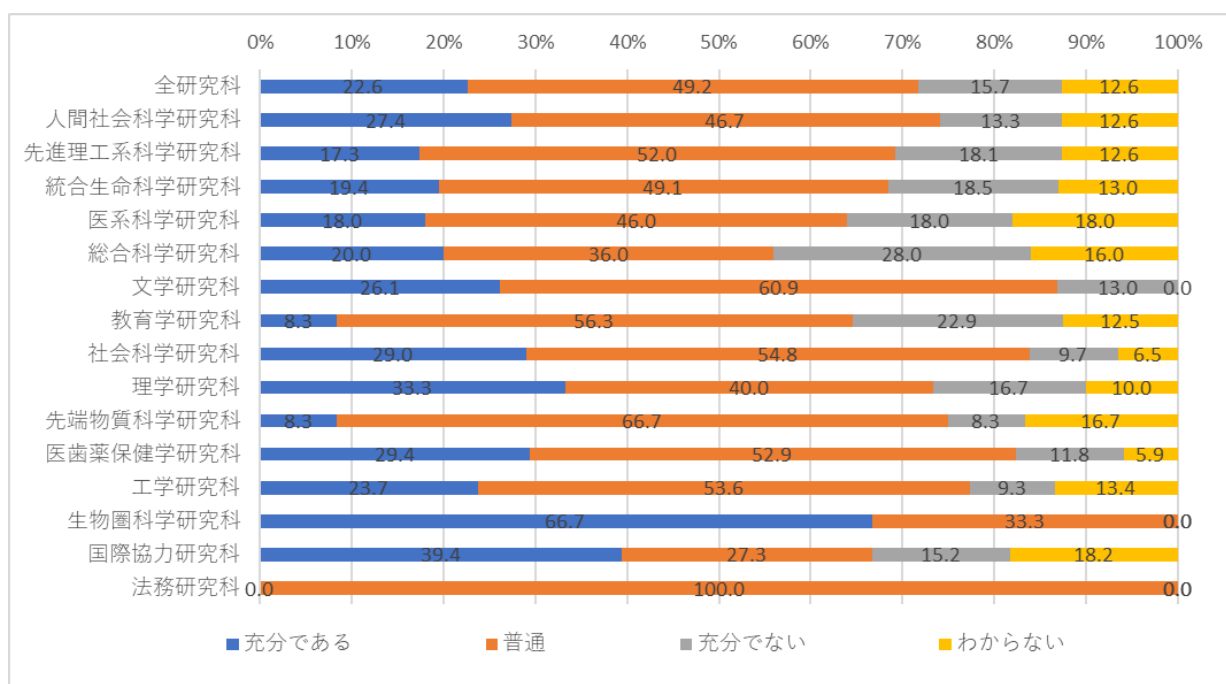
研究科間で差はあるものの、院生の5割程度は学生生活を充実していると感じているようであり、普通含めると8割を超える。「とても充実している」と答えてくれる学生の割合を高めるための方策を検討する必要があるだろう。



17 授業以外の学生生活に対する大学のサポート体制やサービス

設問 30 授業以外の学生生活に関して、大学側のサポート（支援）体制やサービス内容・メニューは、全般的に見て充分だと思いますか。

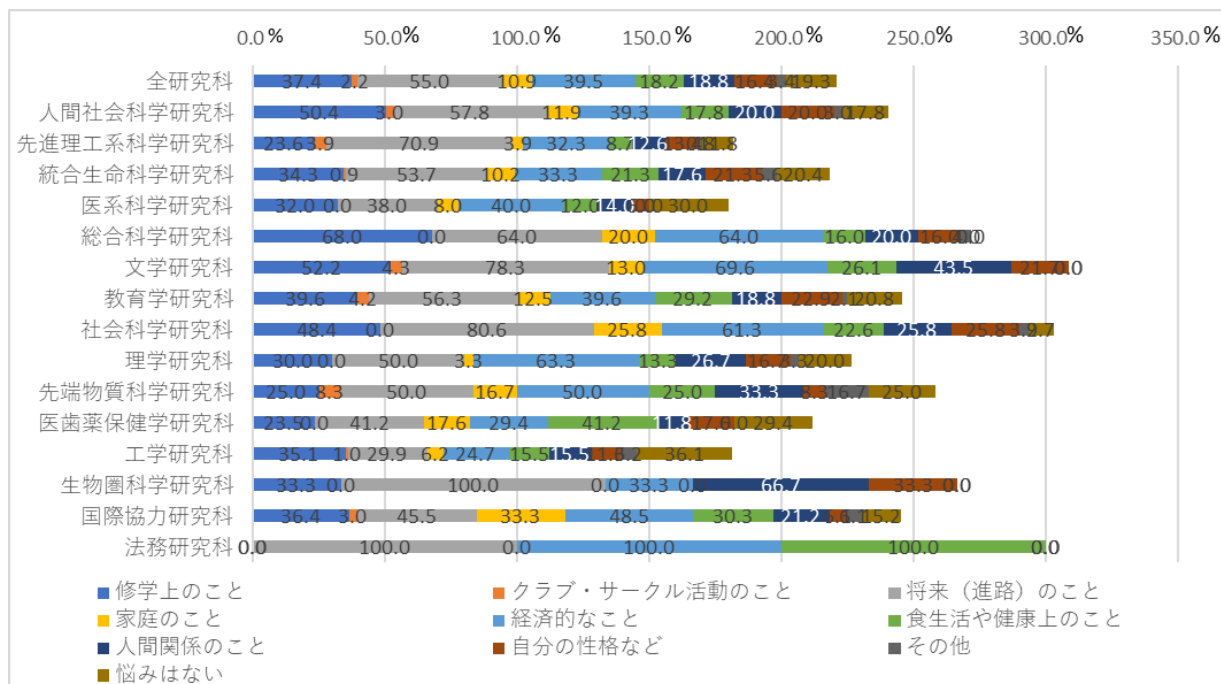
研究科間で差はあるものの、おしなべて6割の学生は大学側のサポート等を十分だと判断しているようであり、普通を含めると8割を終える。ただし一定数（1割前後）の学生において「わからない」と回答している学生もあり、大学のサポート自体が認知されていない可能性もある。こうしたことも踏まえ、充実感を拡大するサービスのあり方を慎重に検討していく必要がある。



18 学生生活の悩み

設問 31 学生生活の中で悩みがありますか。(複数回答可)

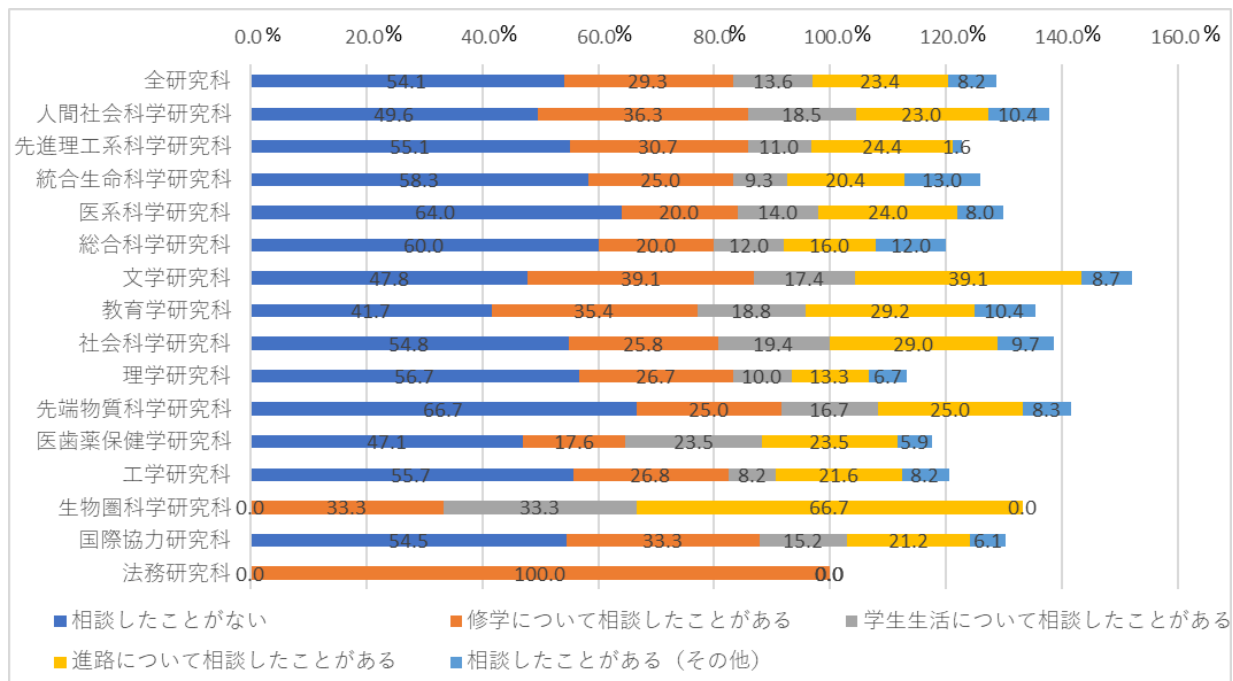
全体として「将来（進路）のこと」という回答が55.0%と最も多く、前回（51.4%）から3.6%増加していた。学部生と比較して院生に増えている悩みは「経済的なこと」39.5%（学部生では19.3%）であり、前回の院生での結果（35.7%）と比べても3.8%増加していた。



19 相談内容と相談窓口

設問 32 修学や学生生活に関して相談するチューター教員がいますが、チューターに相談したことがありますか。相談したことがある場合は、相談内容を選択してください。(複数回答可)

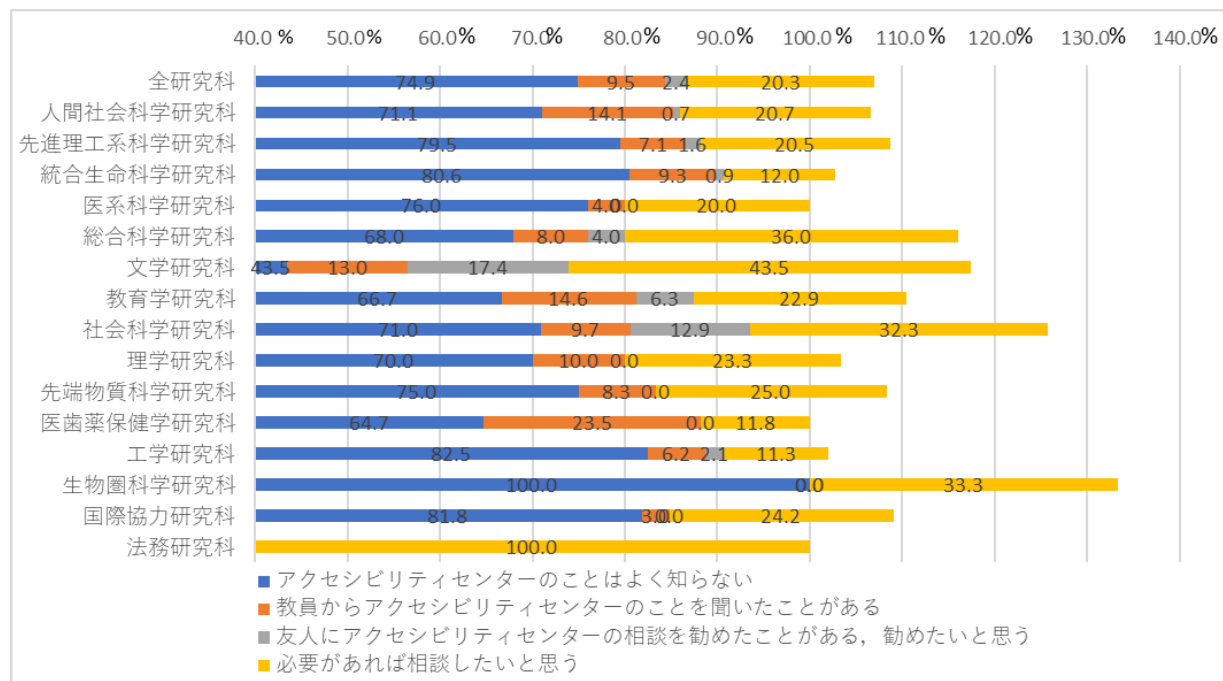
全体として「相談したことがない」という回答は54.1%で、院生の半数近くはチューター教員に相談した経験があり、前回と比較して相談率は10.5%上がっていた。相談内容としては、前回同様「修学について」と「進路について」が主であった。



設問 33 アクセシビリティセンターについて伺います。(複数回答可)

アクセシビリティセンターのことをよく知らない学生は、全研究科合計が74.9%で、学部生の66.5%より高い。「必要があれば相談したいと思う」は20%あり、「友人に相談を勧めた・勧めたいと思う」は2.4%あった。学生がさらに相談できるように、センターの認知度を上げて学生支援につながるようにする必要がある。「教員からセンターのことを聞いたことがある」が9.5%であったことは、学生の認知度の向上につながっていると思われる。

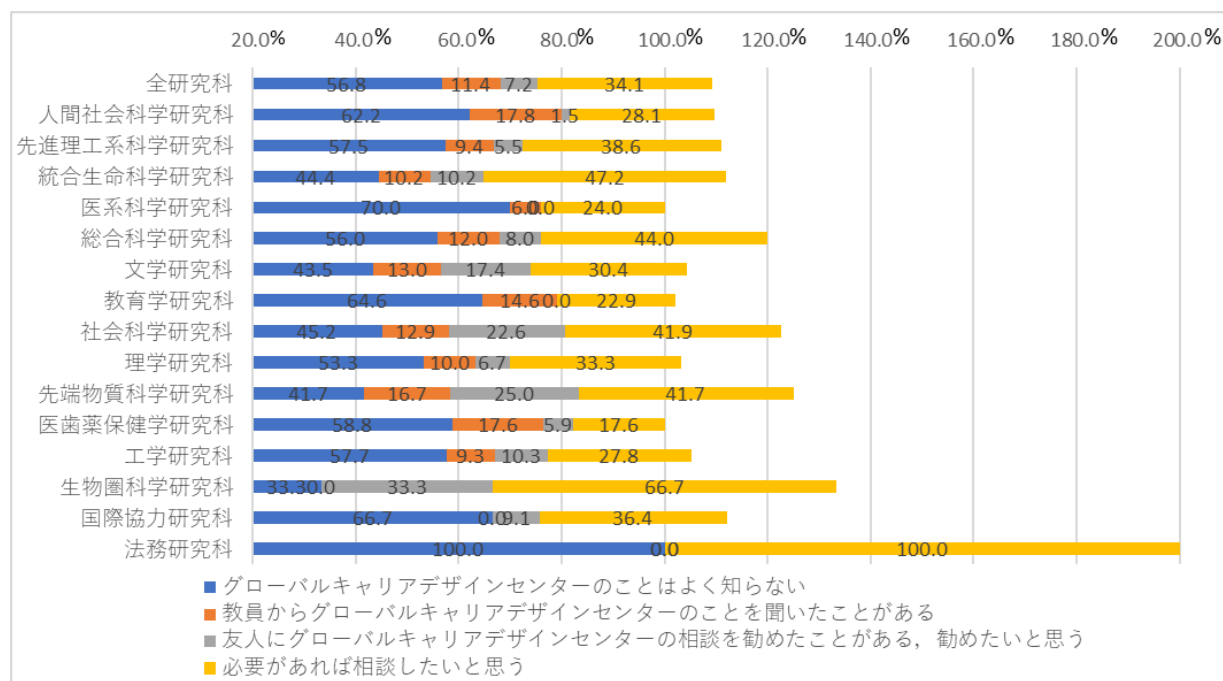
※ グラフの目盛りの最小値は40%



設問 34 グローバルキャリアデザインセンターについて伺います。(複数回答可)

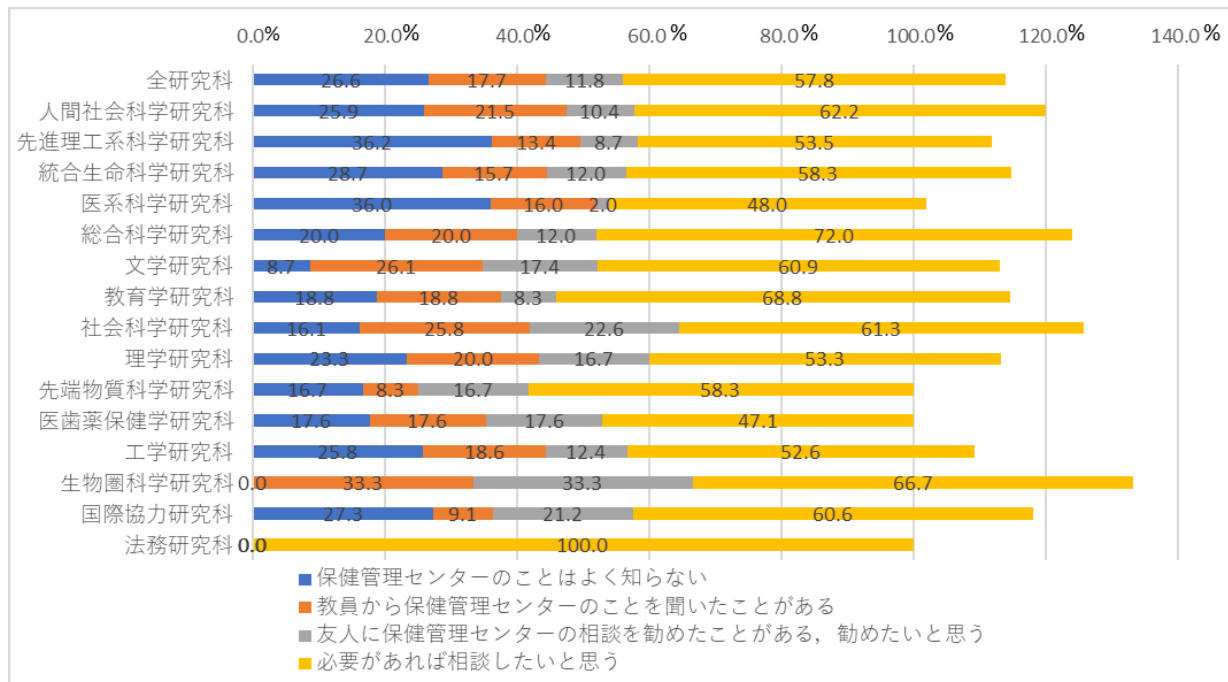
学部生に対する調査では、全体の63%の学生が「グローバルキャリアデザインセンターのことはよく知らない」と回答していたのに対し、大学院生に対する調査では約57%となっている。一方で、「必要があれば相談したいと思う」と回答する大学院生の割合は34%となっており、学部生に対する調査の24%よりも10ポイント高くなっている。前回の調査と同様に、学部生よりも大学院生に対する認知度はやや高く、近年の博士人材を対象とする取り組みが影響していることも考えられる。

※ グラフの目盛りの最小値は20%



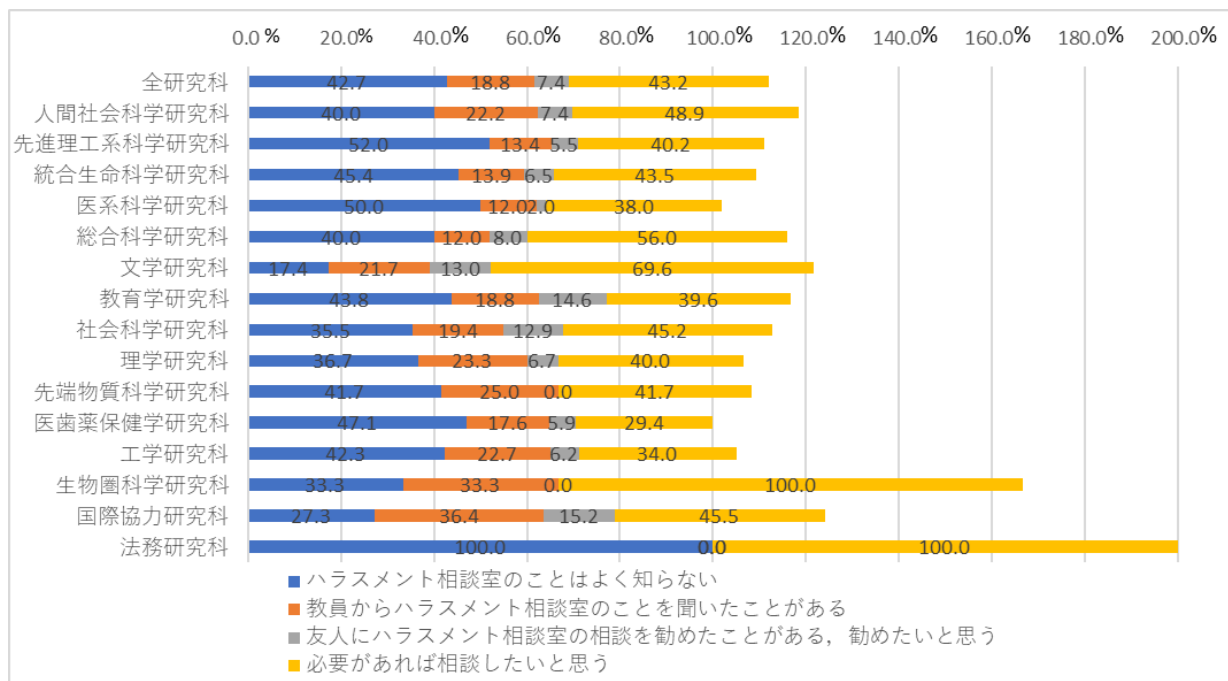
設問 35 保健管理センターについて伺います。(複数回答可)

全体として「保健管理センターのことはよく知らない」という回答は 26.6%であり、前回 (63.0%) と比較すると、院生において保健管理センターの周知率はかなり上がってきている。「教員から聞いたことがある」も 17.7% (前回 9.3%) と増加し、「必要があれば相談したいと思う」という割合も全体として 6 割に近づいている。



設問 36 ハラスメント相談室について伺います。(複数回答可)

学部生に比して、その文脈依存性から、やや認知度は高いように思われるが、それでも一部研究科を除き、4 割の学生がハラスメント相談室のことを「よく知らない」と回答している点には、注意が必要である。義務化する形で、ハラスメント相談室の認知度を上げるための各種研修や説明会を定期的に行う必要があるのではないかと。

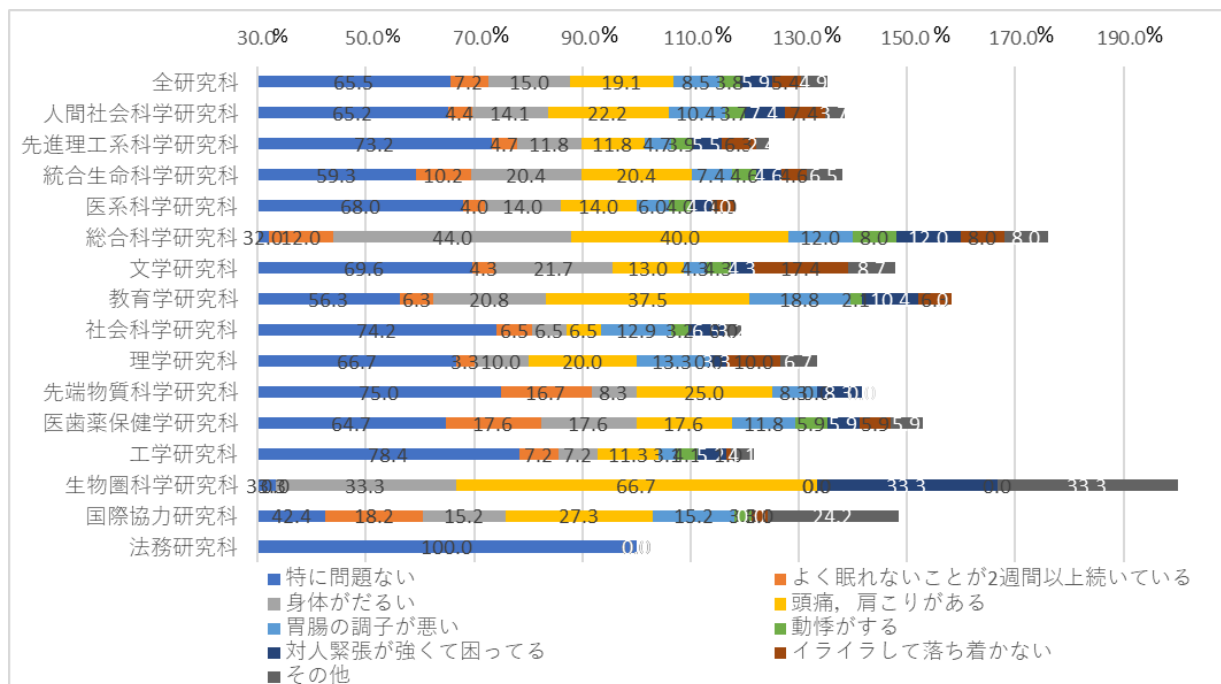


20 現在の健康状態

設問 37 現在の健康状態はどうか。(複数回答可)

全体として、65.5%が「特に問題ない」と回答しており、前回(63.9%)より若干よくなっている。不調として多いのは「頭痛、肩こり」19.1%、「身体がだるい」15.0%で、その割合は学部生より6～7ポイント上がっている。また、うつ状態の一つの指標となる「2週間以上の不眠」を有する者の割合が7.2%(前回7.5%)であった。この項目は、近年大学院生で7%台、学部生においては4%台で推移している。睡眠は心身の健康の要であるので注意が必要である。

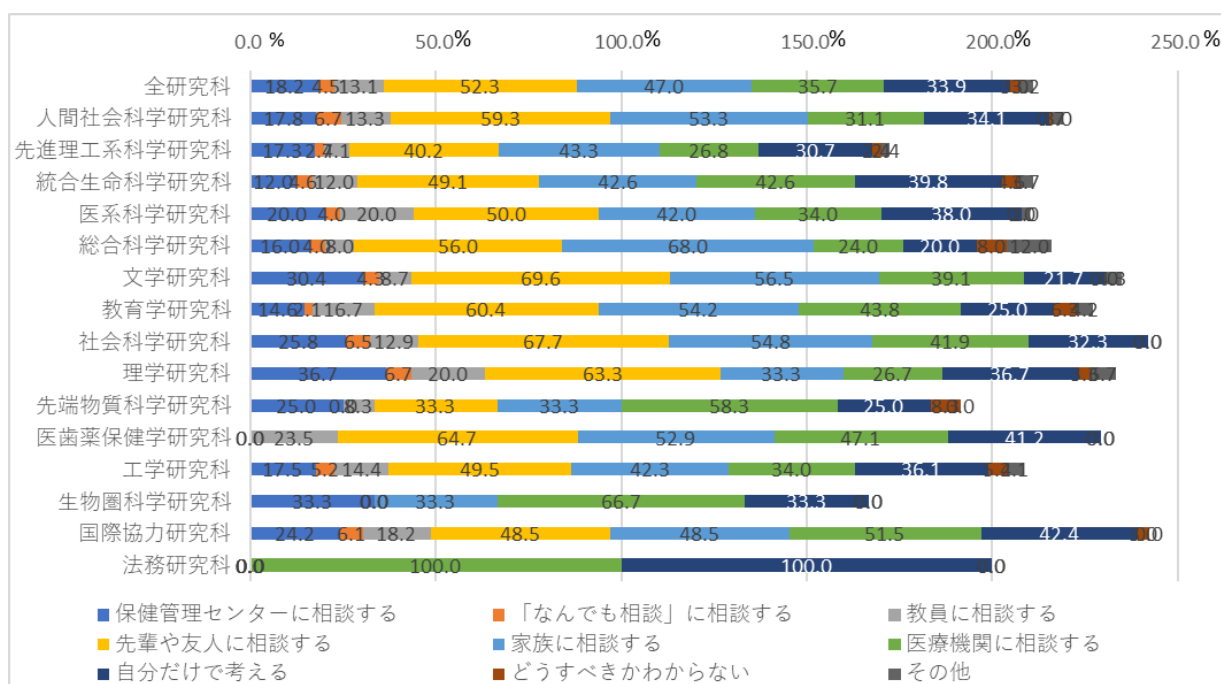
※ グラフの目盛りの最小値は30%



21 身体面・心理面の悩み解消

設問 38 身体面、心理面で何か悩みが生じた場合には、解消に向けてどうしますか。(複数回答可)

相談する相手として「先輩や友人」と回答した者の割合がもっとも高く52.3%、次に「家族」47.0%であり、過去の調査結果と同様の傾向であった。学部生においてはこの2つの順位が今回逆転していたが、大学院生において変化はなかった。ただ、「家族」への相談は前回38.6%から8.4%増加していた。「保健管理センター」を選んだ回答は18.2%(前回18.0%、前々回13.4%)と漸増している。

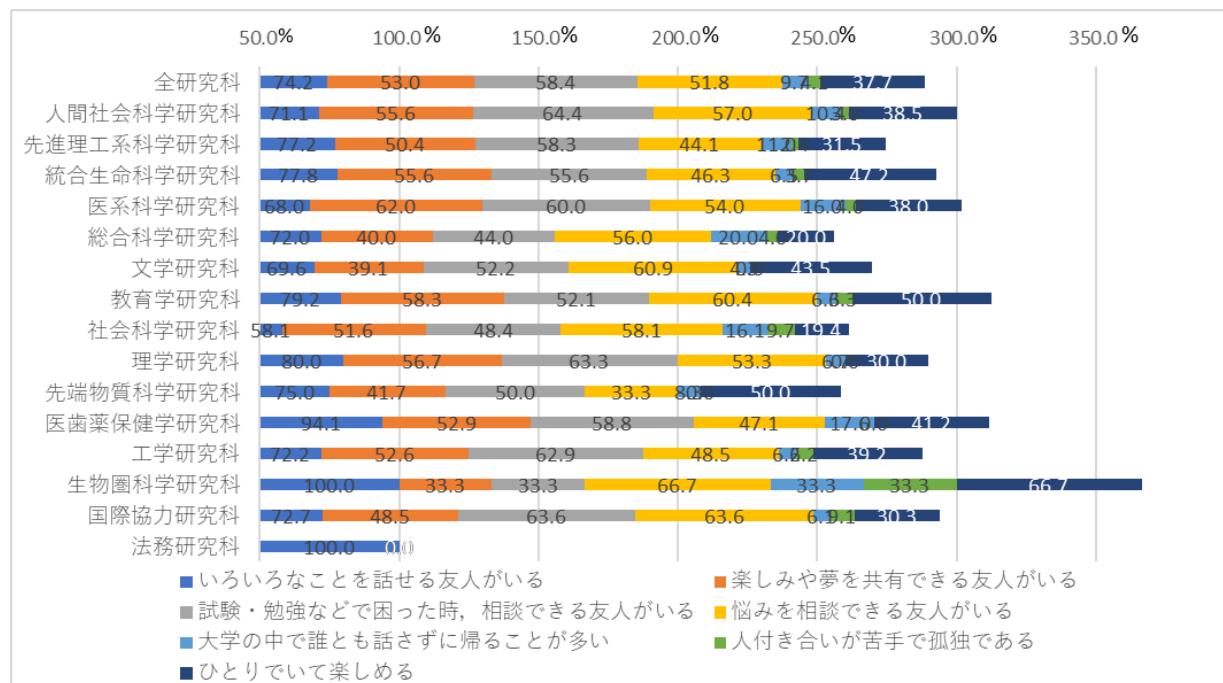


2.2 友人との関係

設問 39 友人についてお尋ねします。(複数回答可)

大学院生の約4人に3人は、「いろいろなことを話せる友人がいる」と回答している。一方、「人付き合いが苦手で孤独である」と回答する大学院生の割合は4%、「大学の中で誰とも話さずに帰ることが多い」は10%となっている。孤立傾向にある学生は、学部生、大学院生ともに、全体の1割程度を占めている。

※ グラフの目盛りの最小値は50%

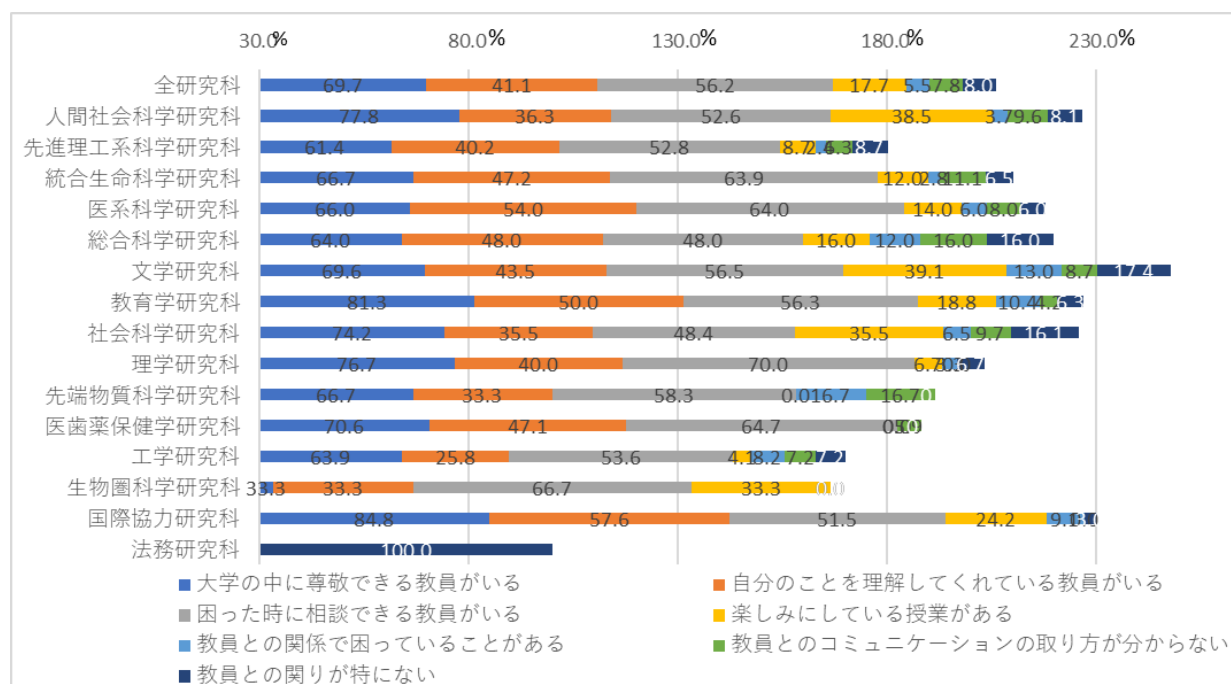


2.3 教員との関係

設問 40 教員についてお尋ねします。(複数回答可)

「大学の中に尊敬できる教員がいる」と回答した大学院生は全体の約7割となっており、学部生の36%と比べても遥かに高い。その一方、「教員との関りが特にない」と回答した大学院生は8%であり、学部生の約4割と比べて遥かに低くなっている。研究活動を通じて教員と接する機会の多い大学院の特徴が表れている。

※ グラフの目盛りの最小値は30%

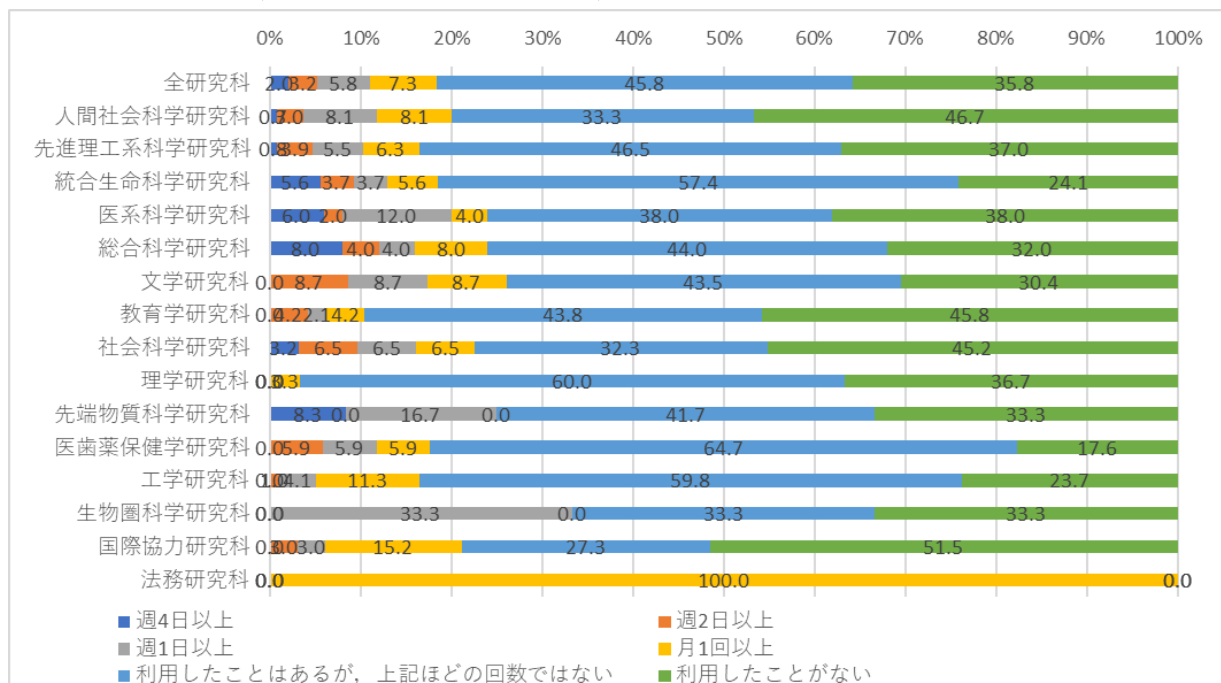


2 4 学生交流スペースの利用

設問 41 構内のフリースペースや多目的室を利用したことがありますか。利用している場合、どのくらいの頻度で利用しますか。

学部生では「利用したことがない」が 9.1%であったが、大学院生になると 20.0%が「利用したことがない」と回答している。これは大学院生は研究室や自習室のように学生用スペースが確保されていることから、学部生のようにフリースペース等を利用する機会が少ないと考えられる。

全体の傾向としては、月 1 回未満の利用が最多で、「利用したことがない」がそれに続く形となっている。



2 5 所属研究科の学生支援室の対応

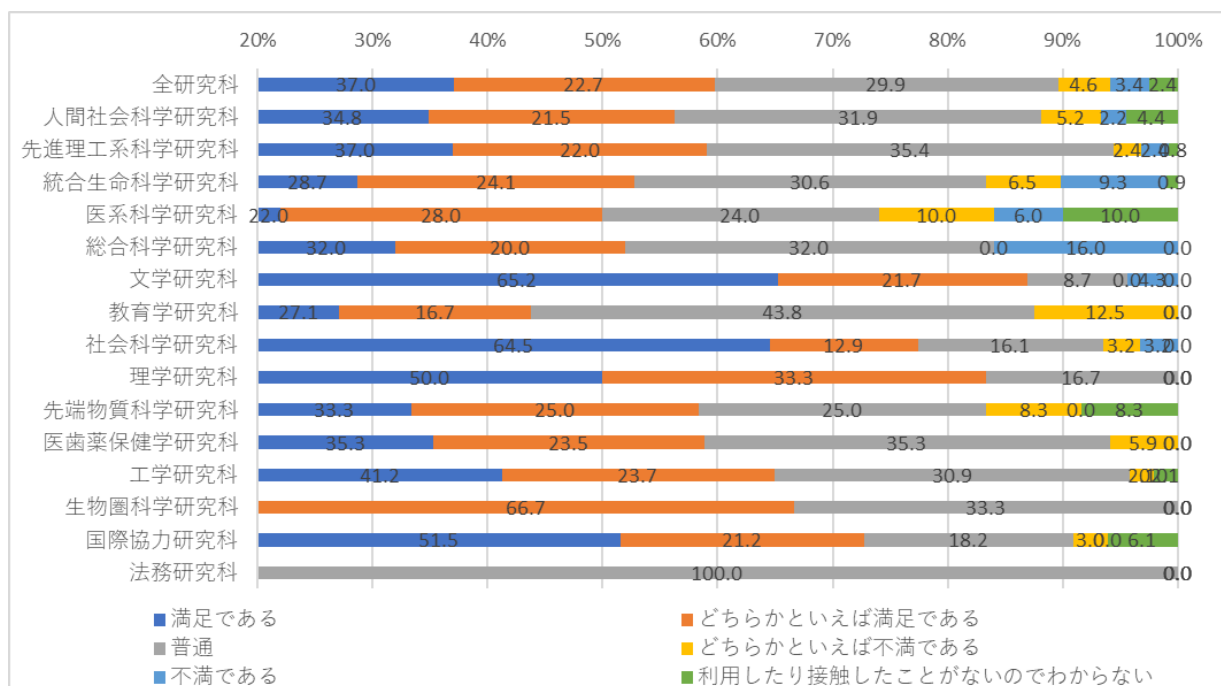
設問 42 所属学部・研究科の学生支援室の対応について、印象や満足度を教えてください。

「利用したことがない」と回答した割合が学部生は 9.1%であったが、大学院生では 2.4%であった。また、利用したことがある者のうち 59.7%（グラフ 2）が「満足である」「どちらかといえば満足」と回答しており、大学院生は学部生よりも学生支援室を利用する割合が高く、満足度も高いことがわかる。

「満足である」「どちらかといえば満足」と回答した割合（グラフ 2）が高いのは文学研究科（86.9%）、理学研究科（83.3%）であった。全研究科において「満足である」「どちらかといえば満足」の割合は前回調査と同様だが、「不満である」「どちらかといえば不満」と回答した割合は 3.2%減少している。

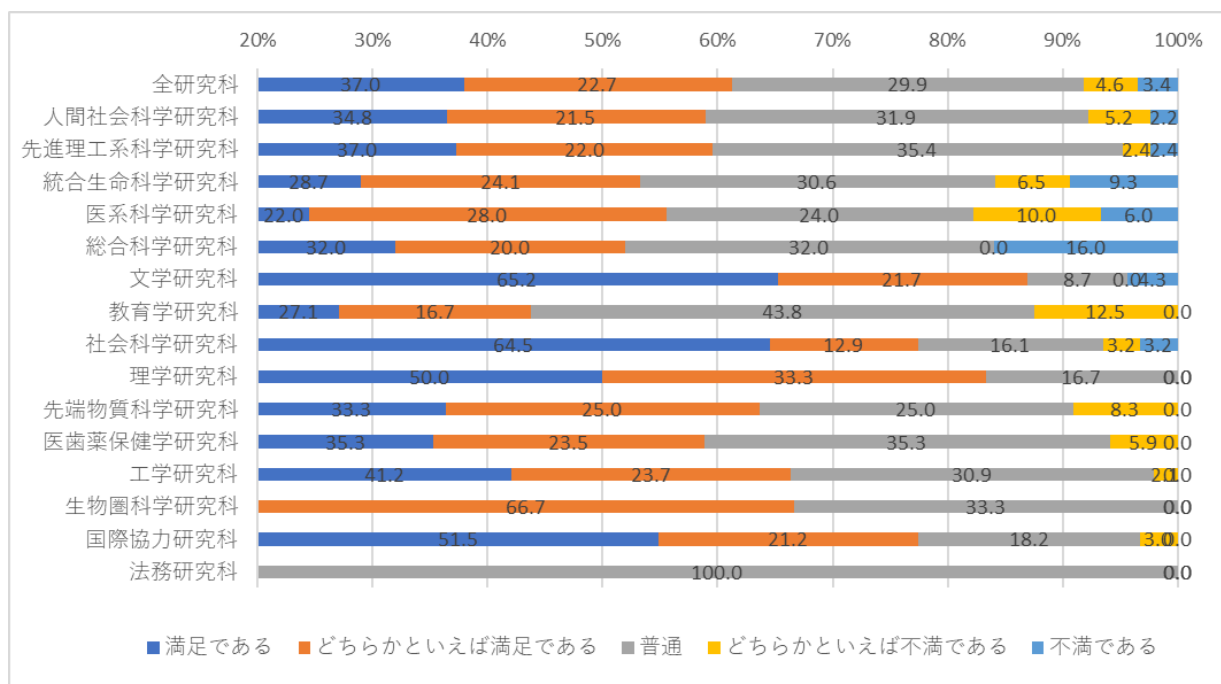
【グラフ 1（利用したことがない者を含む）】

※ グラフの目盛りの最小値は 20%



【グラフ2 (利用したことがある者のみ)】

※ グラフの目盛りの最小値は20%

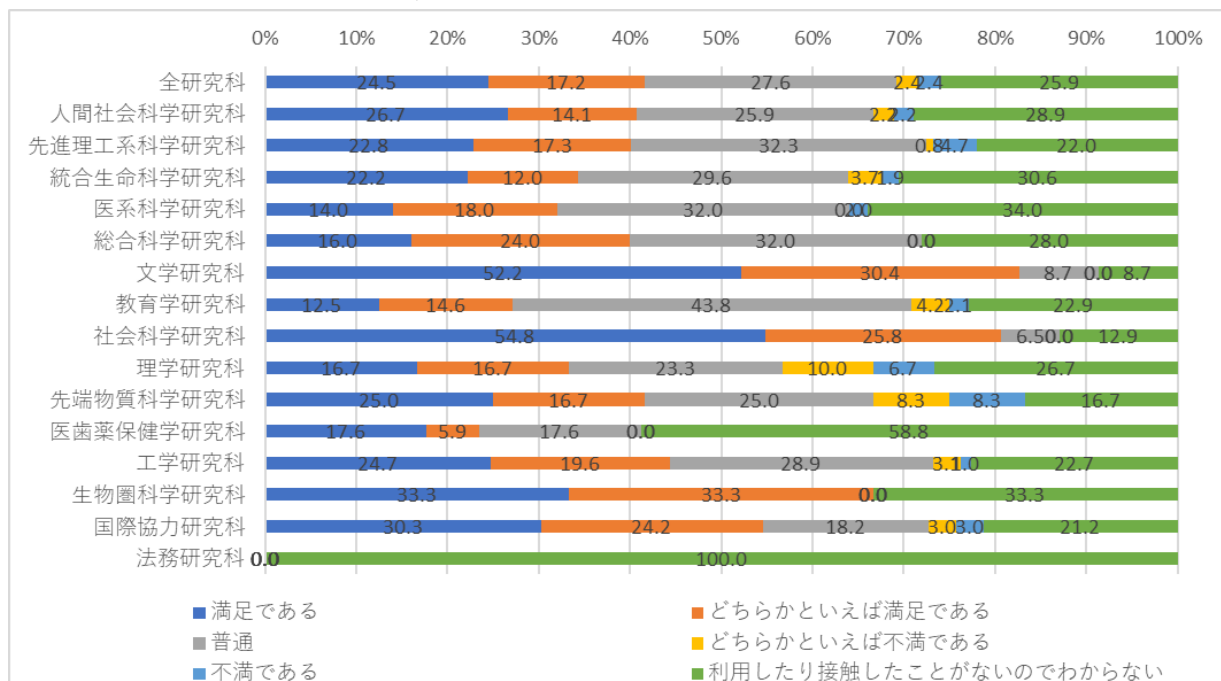


2.6 学生プラザの学生支援部門の対応

設問 43 学生プラザの学生支援部門の対応について、印象や満足度を教えてください。

全体の74.1%が学生プラザの学生支援部門を利用しており、前回調査と同様である。また、学部生の利用割合(67.0%)よりも高いことがわかる。

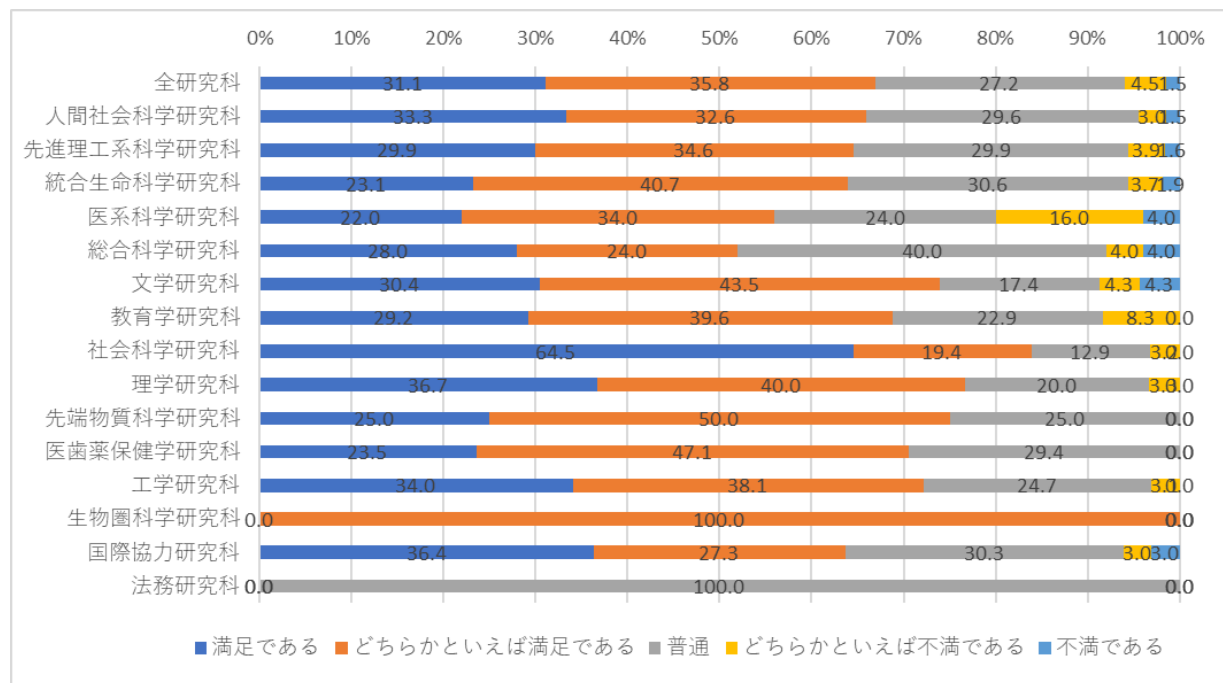
「満足である」「どちらかといえば満足」の割合が高いのは、文学研究科(82.6%)、社会科学研究科(80.6%)であった。全研究科における傾向は、前回調査と同様であった。



27 本学の教育・学習、学生生活などの全体的な満足度

設問 44 本学での教育・学習、学生生活などに関して、全体として「良い」、「楽しい」と感じるなど、満足していますか。

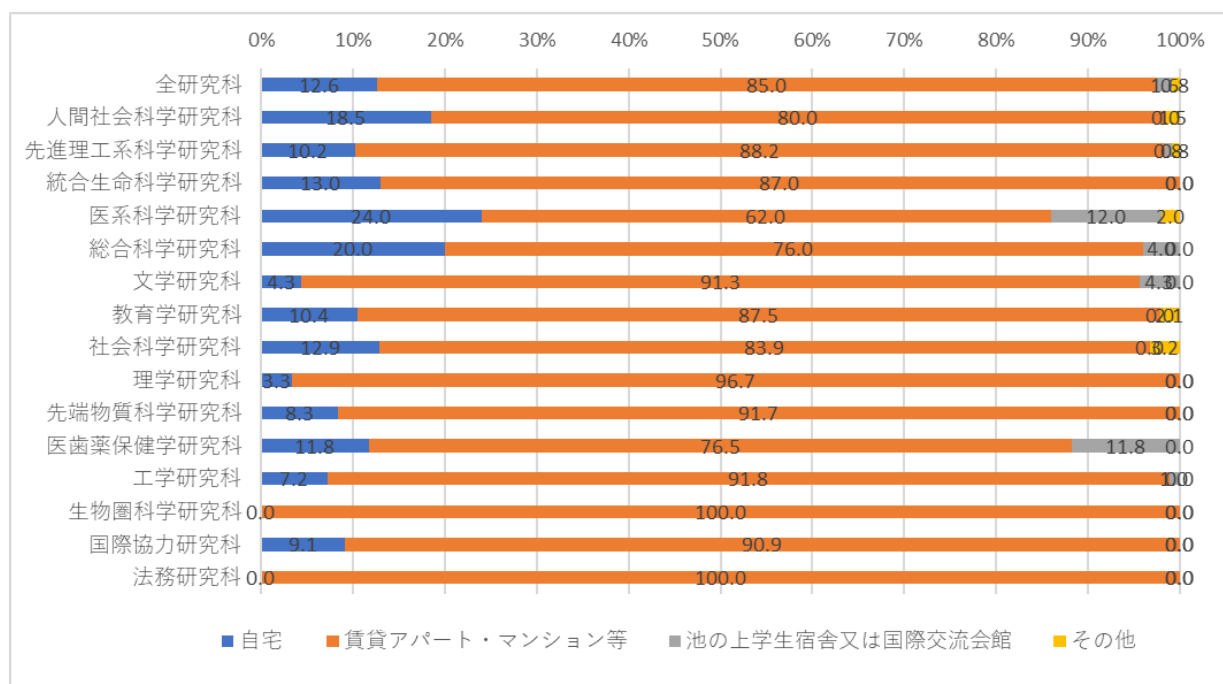
研究科により差はあるが、院生の6割強は大学での教育・学習・学生生活に満足しているようであり、普通を含めると9割を超える。他の研究科に比して満足に思う学生の割合が低い医学系・総合科学については、若干留意をしておく必要はあるだろう。



28 居住形態

設問 45 居住形態を教えてください。

医学系を除く多くの学部学生の大半は、賃貸アパート・マンション等に住んでいることがわかる。医学系の学生の自宅割合の高さは、おそらく広島県の医学系の家庭出身者が多いことに起因すると思われる。



29 通学方法

設問 46 通学方法を教えてください。(複数回答可)

自転車通学者がボリュームゾーンを形成し5割前後であることがわかる。また、学部生に比して、自動車利用の割合が高い点が院生の特徴とも言えよう。この分布を踏まえ、院生には交通指導を強化する必要もあるだろう。

